

# 2022(令和4)年度 大学戦略 I R室活動報告

国立大学法人滋賀大学 大学戦略 I R室

# 1. 2022（令和4）年度活動の概要

2022（令和4）年度は、以下の課題を中心に活動を進めた。

分析課題	概要・目的	関連部局
入試種別ごとの学業成績及び就職志望度の相関についての分析	入試種別が増えたことにより学生の多様化が進んでいる中で、入試種別ごとの学業成績（GPA）や就職志望度を評価することにより、今後の入試設計の参考とする。	教育学部
入試種別ごとの学業成績及び進路状況等との相関についての分析	入試種別ごとの学業成績（GPA）を調査するとともに、1年次と卒業時の成績相関や進路状況との関係等を分析することにより、今後の入試設計及び学業指導の参考とする。	経済学部 データサイエンス学部
図書館利用度が学業成績に与える効果についての分析	図書館の利用状況と学業成績（GPA）に相関関係がみられるかを分析するとともに、分析結果については、図書館の学生サービス向上や設備拡充に活用する。	附属図書館
令和4年度新入生意識等調査の分析	本学のブランド力分析の一環として、令和4年度新入生意識等調査の分析を行い、新入学生の本学選択の要因等を把握する。	総務課政策企画室

## 2. 分析結果と政策へのインプリケーション

### (1) 入試種別ごとの学業成績及び就職志望度の相関についての分析（教育学部関連）【付録①】

- 教育学部学生の入試種別と、学業成績および教員志望度分析から以下の点が指摘できる。
- 1年次成績と3年次あるいは卒業時のGPAの比較からは、いずれの入学年度、入試種別においてもGPAの上昇がみることができ、学習指導また学生の大学における学習方法への習熟が観察できる。このGPAの上昇という事象は、経済学部生においては、明確には観察できない点であり、教育学部生における一つの特徴となっている。
- 比較可能な入試類型において、1年次成績と3年次あるいは卒業時の教員志望度を比較した場合、教員志望度が高まっているのは、2019年度入学の一般後期、地域推薦の2例にとどまっている。GPAが学年進行に伴い上昇しているのに対し、教員志望度が低下していることは、一概に大学における教育のみの問題とは言えないが、この面での指導、意識付けに課題がある可能性を示唆している。
- 教員志望度とGPAの関係からは、GPAの高い集団において、教員志望度が高い傾向がいずれの学年においても現れている。大学での学習への適応と教員志望にプラスの関係がある可能性がある。
- 学年進行後のGPAと入試類型との間には、緩やかに地域推薦、一般後期、推薦、一般前期の序列を指摘しうる。他方、学年進行後の教員志望度との間では、地域推薦が高くなっているが、他の類型間の序列は明確に指摘できない。
- GPA、教員志望度という教育成果の観点から、各種入試が教育学部のディプロマポリシーに適合した学生の選抜に寄与しているかどうかは、地域推薦が両指標について良好なパフォーマンスを示している可能性があるが、他の入試種別についての傾向は指摘できない。地域推薦入試は、地域で貢献する教員を志望する者を対象とした明確なアドミッションポリシーを掲げており、このことが、そのパフォーマンスに貢献している可能性はある。
- 地域推薦は1年次と学年進行後の比較が可能な対象年次では、上記のように良好な結果を示しているが、1年次のデータしかない2021年度入学生では、最も教員志望度が低くなっている。この点も踏まえ、多様な入試を展開することが、学生の多様性の確保という観点において、教育学部のディプロマポリシーの達成に有効な施策であるかどうかは、引き続き検討する必要がある。

### (2) 入試種別ごとの学業成績及び進路状況等との相関についての分析（経済学部関連）【付録②】

- 経済学部における入試種別とGPAとの間には明確な関係は指摘できない。いずれかの種別の入試が経済学部のディプロマポリシーにより適合した学生の選抜に寄与しているとは言えない。今後の入試制度設計において、考慮すべき一つの要因である。
- 一般後期入学者の留年率が高く、推薦(普通科)入学者のそれが低いということは示されているが、今回の分析では、留年の理由(不本意留年にあたるものか、留学などの自己研鑽期間を持つためのものか)を区別していないので、より不本意留年者(不本意な大学選択も含め)によって占められると考えられる進級留年率による分析も試みる必要があるかもしれない。
- GPAと教育の一つの成果として考えることができる大企業就職率との間にプラスの関係がみられることは、経済学部の教育実績が、そのディプロマポリシーを達成していることの一つの証左となりうる。

### (3) 入試種別ごとの学業成績及び進路状況等との相関についての分析 (DS学部関連) 【付録③】

- データサイエンス学部生については、入試種別にみると、2020年度入学生までは、学年進行後の成績では、一般後期が最も高い実績となっており、データサイエンス学部での学習により適合していることが示唆される。しかし、2021年度及び2022年度入学生では、一般後期の1年次GPAは3類型の最下位となっており、全く逆の傾向となっている。このことの要因・影響については、この年次の学年進行後の成績ともあわせて、今後検討していくことが必要である。
- 1年次と学年進行時のGPAの比較では、AO入学生における変化幅について、2017～2018年度入学生においては上昇幅が3類型で最も小さく、2019年度、2020年度入学生においては下降幅が最も大きくなっている。このことは、相対的にAO入試入学生において、入学後の学習への適合に課題がある学生が生じている可能性を示唆するのではないかと考えられる。
- 文系学生と理系学生では、理系学生のGPAが、一年次及び学年進行後も(2021年入学生1年次を除き)高くなっている。
- GPAと教育の一つの成果として考えることができる大企業就職率との間にプラスの関係がみられること、また卒業者に占める大企業等就職者+大学院進学者の割合が、GPA最上位グループで最も高くなっていることは、データサイエンス学部の教育実績が、そのディプロマポリシーを達成していることの一つの証左となりうる。

### (4) 図書館利用度が学業成績に与える効果についての分析 【付録④】

卒業生にかかるGPAランクごとの1人あたりの在学期間中の貸出冊数について調査したところ、学部を問わずGPAランクが高い学生ほど貸出冊数が増える傾向にあることが分かった。

また、GPAと貸出冊数の相関係数は、全学0.298、教育学部0.398、経済学部0.216、DS学部0.238となっており、いずれも正の相関がみられた。

なお、GPAランクが上がるほど、特別に多く本を読む学生が含まれており、1人あたりの貸出冊数を引き上げているという傾向もあると思われる。

これらのことを、もともと成績が良い学生が本を多く読んでいるととらえるか、本を多く読む学生ほど、成績が良くなるととらえるかについては、更なるデータ収集・分析が必要となるが、いずれにせよ、あらゆる情報をインターネットで調べることができる現代においても、実際に図書館で文献を調べることの重要性は変わっていないことを示唆している。

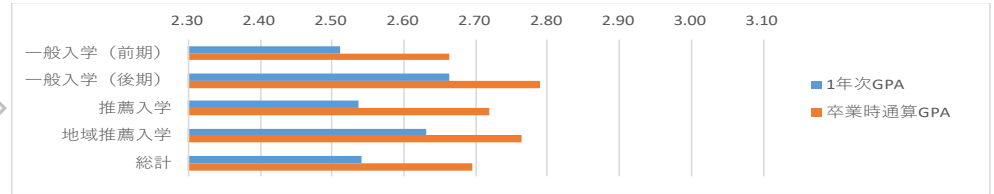
図書館は学生の学習活動を支える要であり、そのためには資料の充実が必須条件であるが、一方で従来のように紙の本を集めるだけではもはやその役割を果たすには不十分であるといえる。新型コロナ禍を契機にオンライン授業や遠隔学習が普及し、図書館においては来館者数・貸出冊数ともコロナ以前と比較すると、回復傾向にはあるものの依然として低い状況が続いている。そのため非来館サービスの充実が喫緊の課題であるが、ウィズコロナ・ポストコロナ時代における新しい教育・研究環境に即した図書館サービスを提供するためには、電子ブックをはじめとする電子資料の充実が必要となるであろう。

# 入試種別ごとの学業成績及び就職志望度の相関についての分析 (教育学部関連)

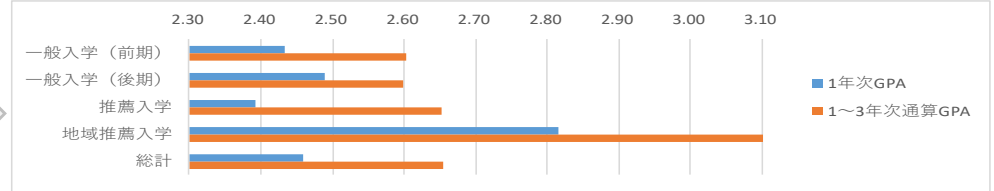
## (1) 入試種別と学業成績(GPA)の関係

※2016～2018年度入学生は、2021年度末までに卒業した学生を対象とし、2019年度以降は2021年度末まで在籍した学生を対象。  
 ※いずれの年度も帰国子女入学、私費外国人入学、社会人入学は、人数が少ないため集計からは除外。  
 ※GPAは平均値 (本頁以降の分析も同じ)

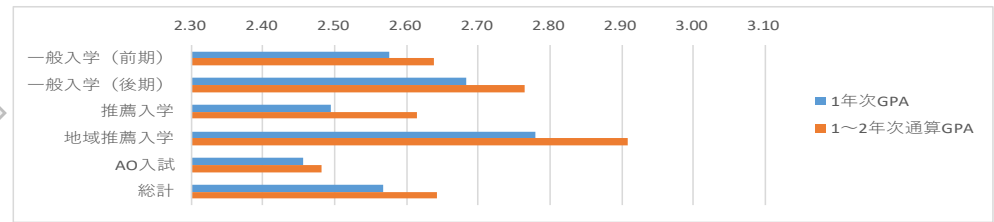
2016～2018 年度入学生	入試種別	人数	1年次GPA	卒業時通算GPA
	一般入学 (前期)	422	2.51	2.66
	一般入学 (後期)	69	2.66	2.79
	推薦入学	154	2.54	2.72
	地域推薦入学	54	2.63	2.76
	総計	699	2.54	2.70



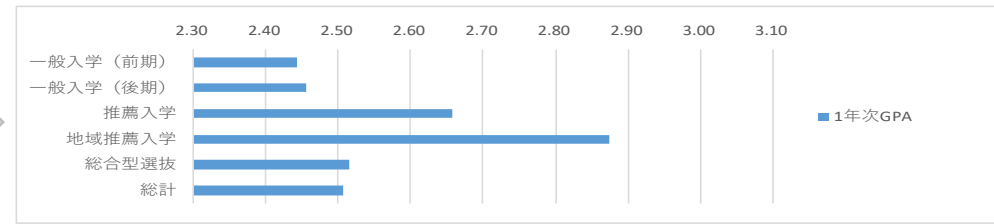
2019 年度入学生	入試種別	人数	1年次GPA	1～3年次通算GPA
	一般入学 (前期)	145	2.43	2.60
	一般入学 (後期)	20	2.49	2.60
	推薦入学	52	2.39	2.65
	地域推薦入学	19	2.82	3.11
	総計	236	2.46	2.65



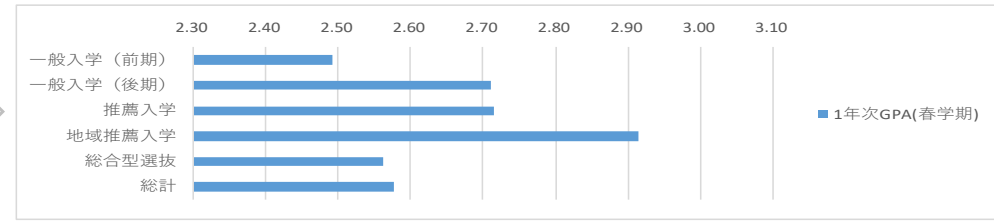
2020 年度入学生	入試種別	人数	1年次GPA	1～2年次通算GPA
	一般入学 (前期)	139	2.58	2.64
	一般入学 (後期)	17	2.68	2.76
	推薦入学	42	2.49	2.61
	地域推薦入学	11	2.78	2.91
	AO入試	21	2.46	2.48
	総計	230	2.57	2.64



2021 年度入学生	入試種別	人数	1年次GPA
	一般入学 (前期)	136	2.44
	一般入学 (後期)	29	2.46
	推薦入学	43	2.66
	地域推薦入学	10	2.87
	総合型選抜	21	2.52
	総計	239	2.51



(参考) 2022 年度入学生 ※春学期のみ	入試種別	人数	1年次GPA(春学期)
	一般入学 (前期)	139	2.49
	一般入学 (後期)	24	2.71
	推薦入学	41	2.71
	地域推薦入学	10	2.91
	総合型選抜	21	2.56
	総計	235	2.58



### 【分析】

- ・2016～2018年度は一般入学 (後期) 者のGPAが1年次・卒業時ともに最も高かったが、2019年度以降は、地域推薦入学者のGPAが最も高い。
- ・2020年度のAO選抜入学者のGPAは全入試区分の中で最も低かったが、2021年度以降の総合型選抜入学者では、総計平均と同等レベルとなっている。

## (2) 入試種別と教員志望度の関係

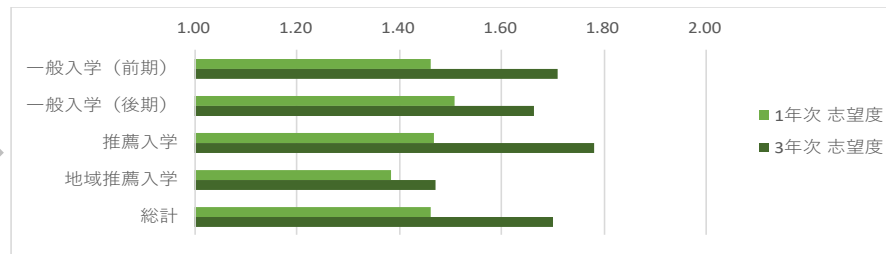
※人数は教員志望度調査の回答者数。

※志望度は平均。数字は低いほど、教員志望度が高い（回答選択肢：1…教員志望、2…迷いあり、3…教員以外）。

※いずれの年度も帰国子女入学、私費外国人入学、社会人入学は、人数が少ないため集計からは除外。

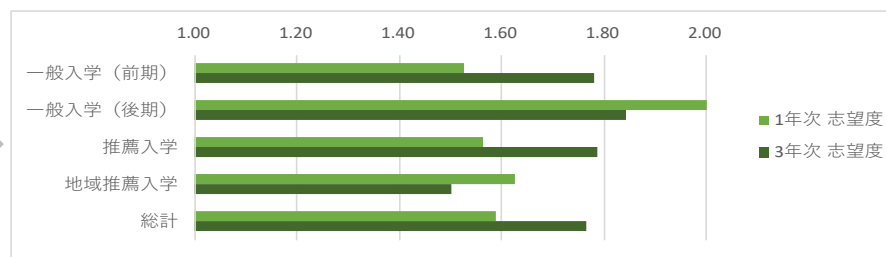
2016～2018  
年度入学生

入試種別	1年次		3年次	
	人数	志望度	人数	志望度
一般入学（前期）	436	1.46	408	1.71
一般入学（後期）	69	1.51	65	1.66
推薦入学	154	1.47	142	1.78
地域推薦入学	52	1.38	53	1.47
総計	711	1.46	668	1.70



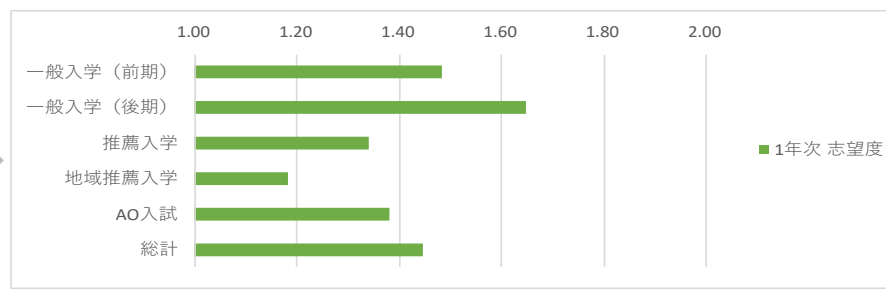
2019  
年度入学生

入試種別	1年次		3年次	
	人数	志望度	人数	志望度
一般入学（前期）	116	1.53	137	1.78
一般入学（後期）	19	2.00	19	1.84
推薦入学	48	1.56	47	1.79
地域推薦入学	16	1.63	18	1.50
総計	199	1.59	221	1.76



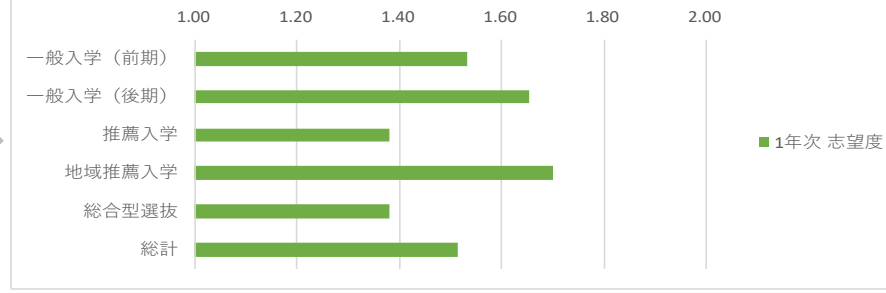
2020  
年度入学生

入試種別	1年次	
	人数	志望度
一般入学（前期）	135	1.48
一般入学（後期）	17	1.65
推薦入学	41	1.34
地域推薦入学	11	1.18
AO入試	21	1.38
総計	225	1.44



2021  
年度入学生

入試種別	1年次	
	人数	志望度
一般入学（前期）	133	1.53
一般入学（後期）	29	1.66
推薦入学	42	1.38
地域推薦入学	10	1.70
総合型選抜	21	1.38
総計	235	1.51



### 【分析】

- ・一般入学（前期）と一般入学（後期）では、一般入学（前期）の方が志望度が高い傾向にある。
- ・2020年度までは、地域推薦入学者の教員志望度が他の入試区分に比べて高い傾向にあったが、2021年度入学者（1年次）では、地域推薦入学者の志望度が最も低い。

### (3) 学業成績と教員志望度の関係

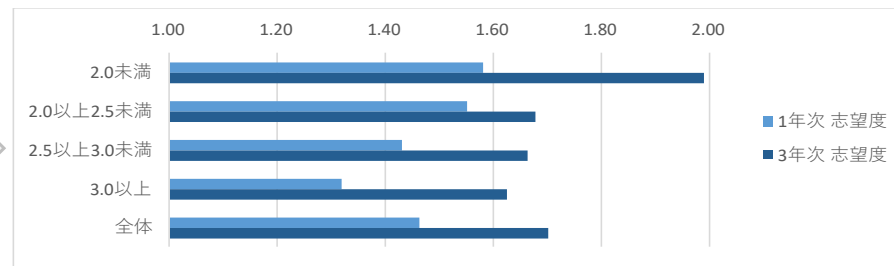
※人数は教員志望度調査の回答者数。

※志望度は平均。数字は低いほど、教員志望度が高い（回答選択肢：1…教員志望、2…迷いあり、3…教員以外）。

※いずれの年度も帰国子女入学、私費外国人入学、社会人入学は、人数が少ないため集計からは除外。

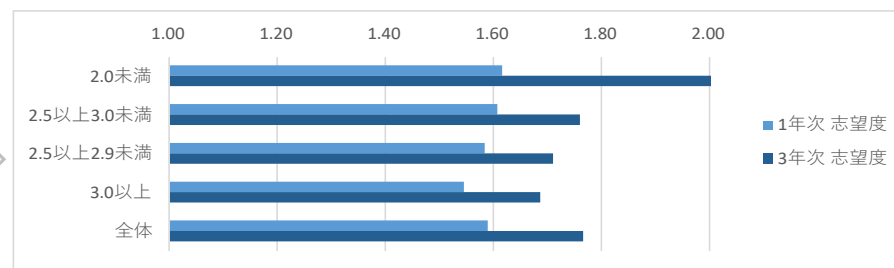
2016～2018  
年度入学生

通算GPA	1年次		3年次	
	人数	志望度	人数	志望度
2.0未満	95	1.58	83	1.99
2.0以上2.5未満	192	1.55	186	1.68
2.5以上3.0未満	286	1.43	274	1.66
3.0以上	138	1.32	125	1.62
全体	711	1.46	668	1.70



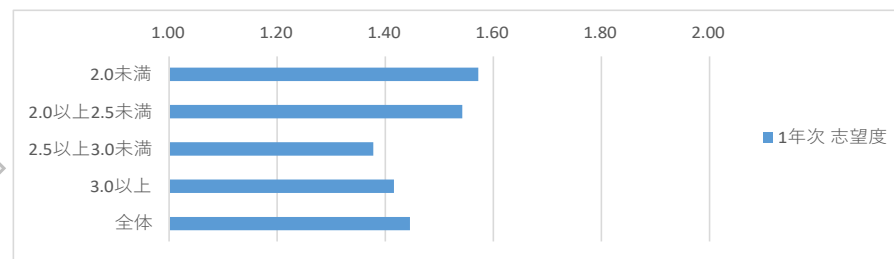
2019  
年度入学生

通算GPA	1年次		3年次	
	人数	志望度	人数	志望度
2.0未満	26	1.62	29	2.03
2.5以上3.0未満	51	1.61	67	1.76
2.5以上2.9未満	89	1.58	90	1.71
3.0以上	33	1.55	35	1.69
全体	199	1.59	221	1.76



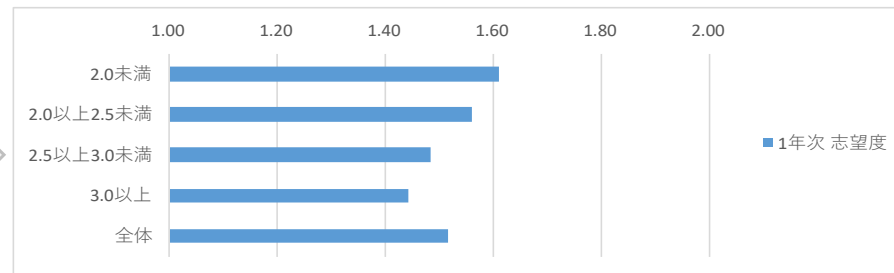
2020  
年度入学生

通算GPA	1年次	
	人数	志望度
2.0未満	21	1.57
2.0以上2.5未満	59	1.54
2.5以上3.0未満	109	1.38
3.0以上	36	1.42
全体	225	1.44



2021  
年度入学生

通算GPA	1年次	
	人数	志望度
2.0未満	41	1.61
2.0以上2.5未満	59	1.56
2.5以上3.0未満	83	1.48
3.0以上	52	1.44
全体	235	1.51



#### 【分析】

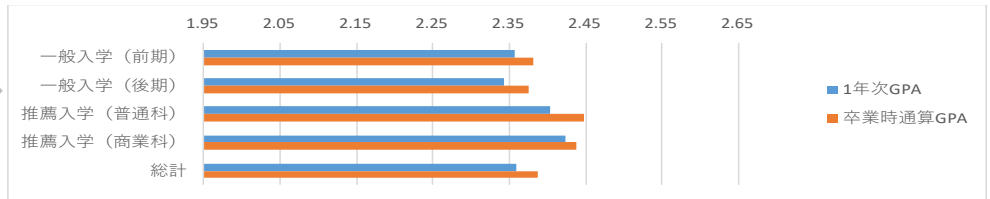
- ・概ね学業成績（GPA）が高いほど教員志望度が高い（もしくは、教員志望度が高い学生は学業成績も良い）傾向にある。
- ・3年次の学業成績（GPA）が2.0未満の学生は、教員志望度の平均値も2.0前後となっており、他の成績層と比較して教員志望度がかなり低い。

# 入試種別ごとの学業成績及び進路状況との相関についての分析 (経済学部関連)

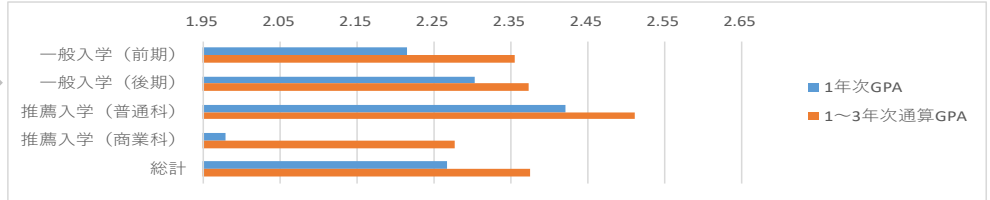
## (1) 入試種別と学業成績(GPA)の関係

※2016～2018年度入学生は、2021年度末までに卒業した学生を対象とし、2019年度以降は2021年度末まで在籍した学生を対象。  
 ※夜間主、編入学、帰国子女入学、私費外国人入学、社会人入学は、集計からは除外。

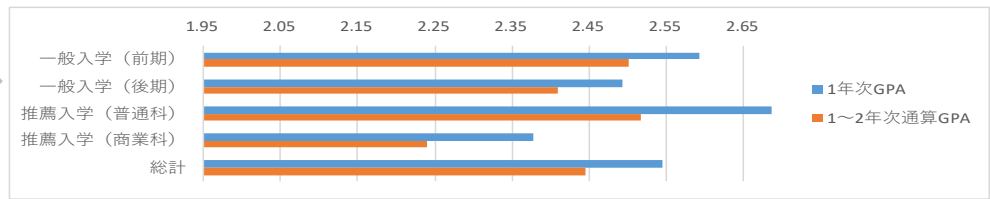
2016～2018 年度入学生	入試種別	人数	1年次GPA	卒業時通算GPA
	一般入学 (前期)	464	2.36	2.38
	一般入学 (後期)	588	2.34	2.38
	推薦入学 (普通科)	114	2.40	2.45
	推薦入学 (商業科)	59	2.42	2.44
	総計	1225	2.36	2.39



2019 年度入学生	入試種別	人数	1年次GPA	1～3年次通算GPA
	一般入学 (前期)	147	2.22	2.35
	一般入学 (後期)	186	2.30	2.37
	推薦入学 (普通科)	40	2.42	2.51
	推薦入学 (商業科)	19	1.98	2.28
	総計	392	2.27	2.38

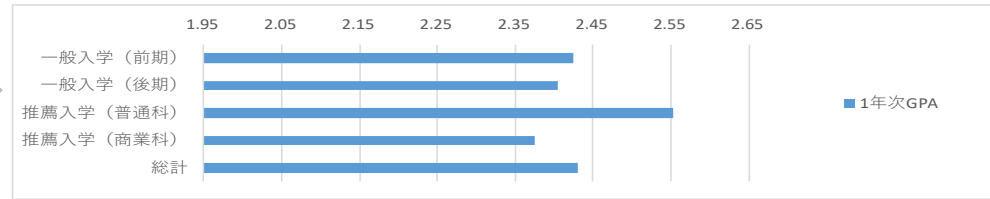


2020 年度入学生	入試種別	人数	1年次GPA	1～2年次通算GPA
	一般入学 (前期)	150	2.59	2.50
	一般入学 (後期)	185	2.49	2.41
	推薦入学 (普通科)	40	2.69	2.52
	推薦入学 (商業科)	20	2.38	2.24
	総計	395	2.54	2.45



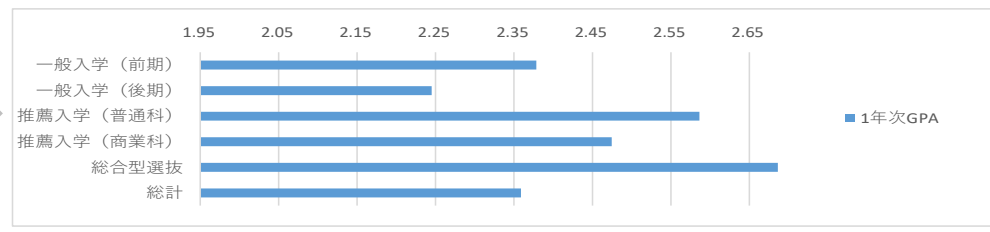
2021 年度入学生	入試種別	人数	1年次GPA
	一般入学 (前期)	191	2.42
	一般入学 (後期)	133	2.41
	推薦入学 (普通科)	47	2.55
	推薦入学 (商業科)	25	2.38
	総計	396	2.43

※総合型選抜は1名のため省略



(参考)

2022 年度入学生 ※春学期のみ	入試種別	人数	1年次GPA(春学期)
	一般入学 (前期)	174	2.38
	一般入学 (後期)	163	2.24
	推薦入学 (普通科)	40	2.59
	推薦入学 (商業科)	21	2.48
	総合型選抜	12	2.69
	総計	410	2.36



### 【分析】

- ・2021年度までは推薦(普通)入学者のGPAが高い傾向にあるが、2022年度1年次(春学期)では総合型選抜入学者のGPAが最も高くなっている。
- ・一般入学者では、入学年度で差異はあるものの、前期入学者のほうが後期入学者よりもGPAがやや高い傾向にある。

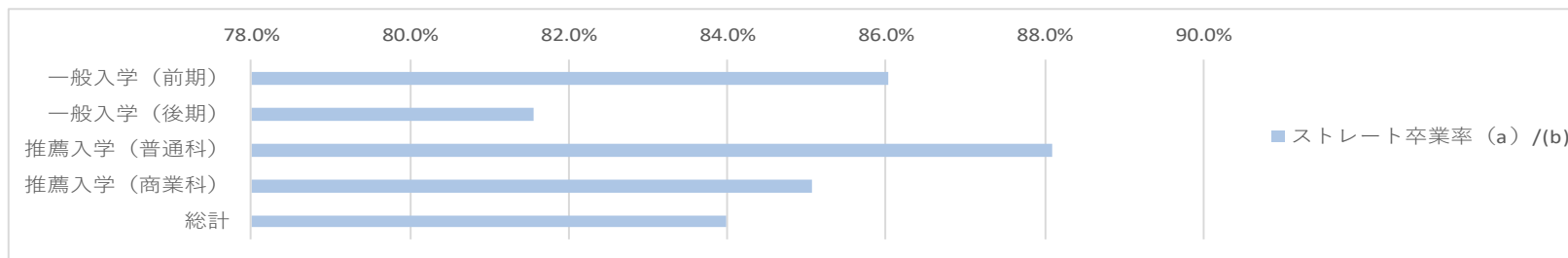


## (2) 入試種別ごとのストレート卒業率

※2021年度末までに在学期間4年で卒業した者の割合

※夜間主、編入学、帰国子女入学、私費外国人入学、社会人入学は、集計からは除外。

2016～2018 年度入学生	入学種別	ストレート卒業者 (a)	入学者 (b)	ストレート卒業率 (a)/(b)
	一般入学 (前期)	443	515	86.0%
	一般入学 (後期)	553	678	81.6%
	推薦入学 (普通科)	111	126	88.1%
	推薦入学 (商業科)	57	67	85.1%
	総計	1,164	1,386	84.0%

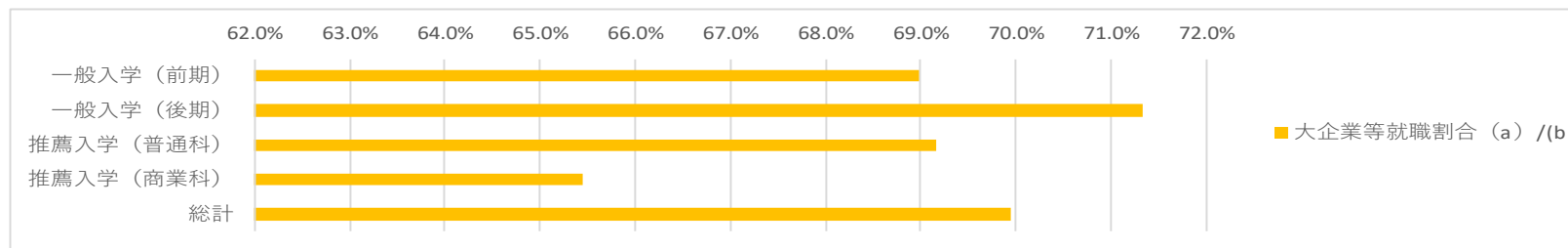


## (3) 入試種別ごとの進路状況 (大企業等就職割合)

※大企業等就職割合：就職者のうち、大企業又は官公庁に就職した学生の割合

※夜間主、編入学、帰国子女入学、私費外国人入学、社会人入学は、集計からは除外。

2016～2018 年度入学生	入学種別	大企業 + 官公庁就職者 (a)	就職者 (b)	大企業等就職割合 (a)/(b)
	一般入学 (前期)	298	432	69.0%
	一般入学 (後期)	388	544	71.3%
	推薦入学 (普通科)	74	107	69.2%
	推薦入学 (商業科)	36	55	65.5%
	総計	796	1,138	69.9%



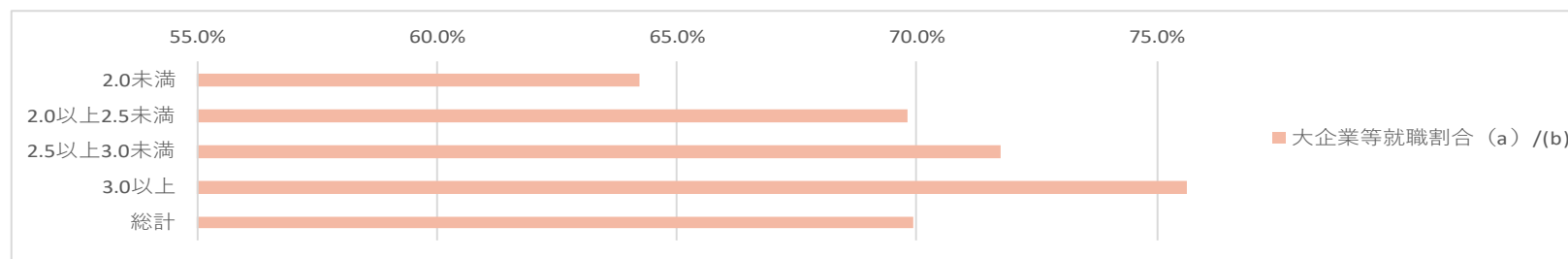
### 【分析】

- ・入試種別ごとのストレート卒業率は、推薦 (普通) > 一般 (前期) > 推薦 (商業) > 一般 (後期) の順に高い。
- ・入試種別ごとの大企業等就職率は、一般 (後期) > 推薦 (普通) > 一般 (前期) > 推薦 (商業) の順に高い。
- ・一般入学 (後期) 者に着目すると、ストレート卒業率は最も低い、大企業等就職割合は最も高い。

#### (4) 1年次の学業成績と進路状況(大企業等就職割合)

※大企業等就職割合：就職者のうち、大企業又は官公庁に就職した学生の割合  
 ※夜間主、編入学、帰国子女入学、私費外国人入学、社会人入学は、集計からは除外。

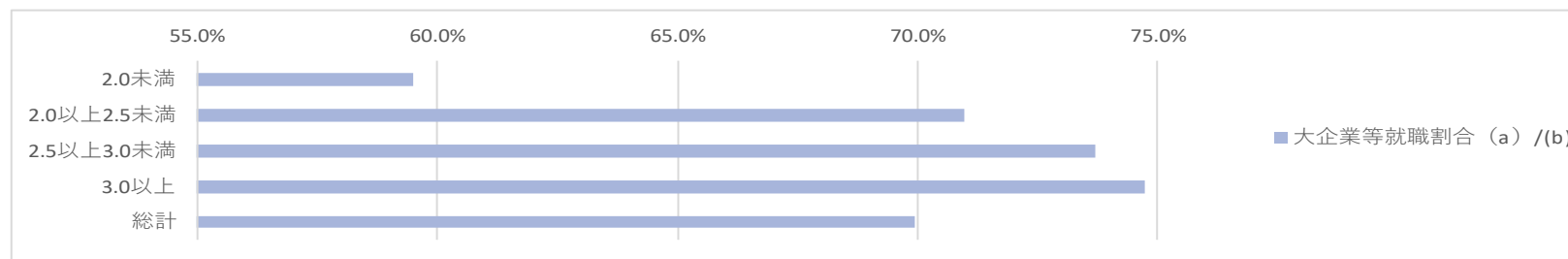
2016～2018 年度入学生	1年次GPA	大企業+官公庁就職者 (a)	就職者 (b)	大企業等就職割合 (a)/(b)
	2.0未満	185	288	64.2%
	2.0以上2.5未満	236	338	69.8%
	2.5以上3.0未満	226	315	71.7%
	3.0以上	149	197	75.6%
	総計	796	1,138	69.9%



#### (5) 卒業時の学業成績と進路状況(大企業等就職割合)

※大企業等就職割合：就職者のうち、大企業又は官公庁に就職した学生の割合  
 ※夜間主、編入学、帰国子女入学、私費外国人入学、社会人入学は、集計からは除外。

2016～2018 年度入学生	1年次～卒業時通算GPA	大企業+官公庁就職者 (a)	就職者 (b)	大企業等就職割合 (a)/(b)
	2.0未満	141	237	59.5%
	2.0以上2.5未満	276	389	71.0%
	2.5以上3.0未満	252	342	73.7%
	3.0以上	127	170	74.7%
	総計	796	1,138	69.9%



#### 【分析】

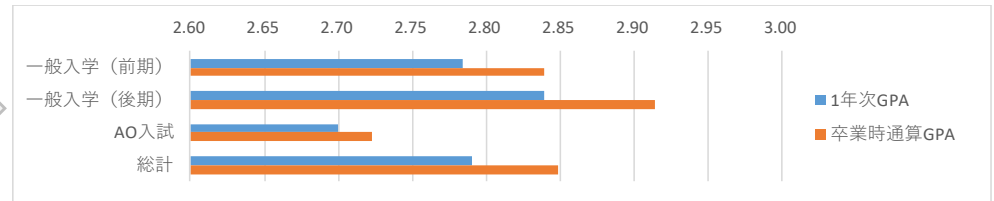
- ・ 1年次、卒業時ともに学業成績 (GPA) が高いほど大企業等就職割合が高くなっている。
- ・ 卒業時では、GPAが2.0未満の層と2.0以上の層では、大企業等就職割合に10%ポイント以上の差が出ている。

# 入試種別ごとの学業成績及び進路状況との相関についての分析 (DS学部関連)

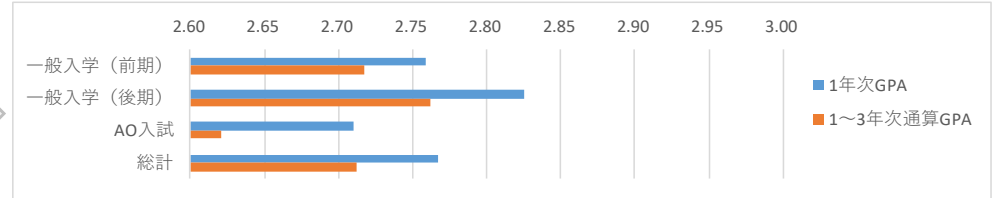
## (1) 入試種別と学業成績(GPA)の関係

※2017～2018年度入学生は、2021年度末までに卒業した学生を対象とし、2019年度以降は2021年度末まで在籍した学生を対象。

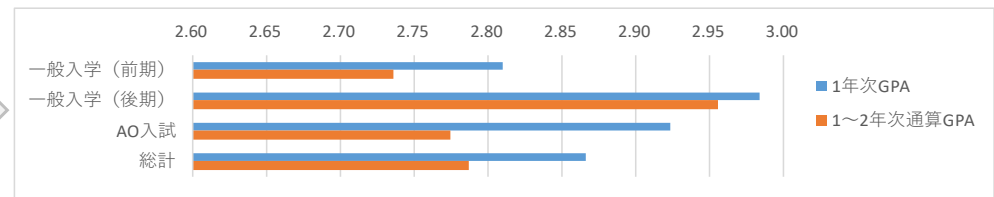
2017～2018 年度入学生	入試種別	人数	1年次GPA	卒業時通算GPA
	一般入学 (前期)	135	2.78	2.84
	一般入学 (後期)	41	2.84	2.91
	AO入試	11	2.70	2.72
	総計	187	2.79	2.85



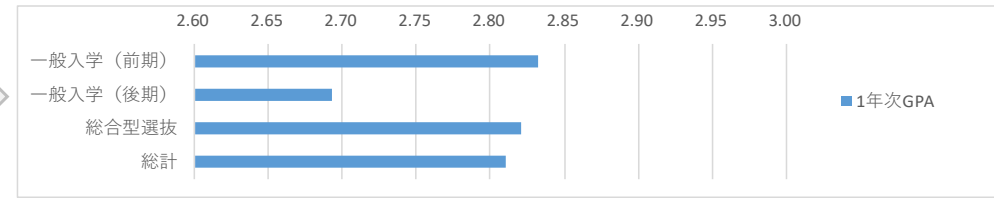
2019 年度入学生	入試種別	人数	1年次GPA	1～3年次通算GPA
	一般入学 (前期)	58	2.76	2.72
	一般入学 (後期)	28	2.83	2.76
	AO入試	19	2.71	2.62
	総計	105	2.77	2.71



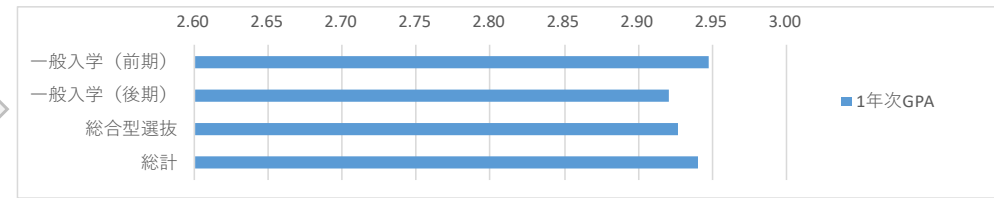
2020 年度入学生	入試種別	人数	1年次GPA	1～2年次通算GPA
	一般入学 (前期)	64	2.81	2.74
	一般入学 (後期)	21	2.98	2.96
	AO入試	20	2.92	2.77
	総計	105	2.87	2.79



2021 年度入学生	入試種別	人数	1年次GPA
	一般入学 (前期)	67	2.83
	一般入学 (後期)	14	2.69
	総合型選抜	18	2.82
	総計	99	2.81



(参考) 2022 年度入学生 ※春学期のみ	入試種別	人数	1年次GPA(春学期)
	一般入学 (前期)	73	2.95
	一般入学 (後期)	20	2.92
	総合型選抜	11	2.93
	総計	104	2.94



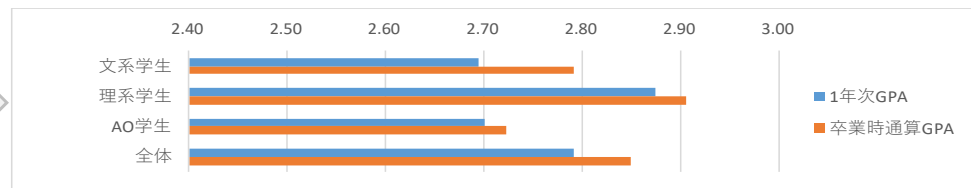
### 【分析】

- ・2020年度までは、一般入学（後期）の学業成績（GPA）が最も高いが、2021年度入学生以降では最も低くなっている。
- ・2019年度までは、AO入学者のGPAが一般入学者に比べて低い傾向にあったが、2020年度以降（2021年度～総合型）は、一般入学者と同等レベルになっている。

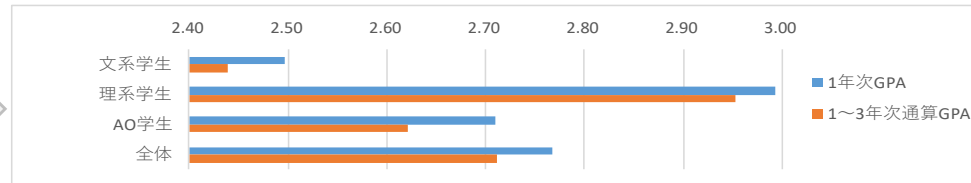
## (2) 文系・理系別の学業成績(GPA)

※センター試験（共通テスト）の理科において、2科目受験をした学生を「理系学生」、1科目受験した学生を「文系学生」と定義。  
 ※2017～2018年度入学生は、2021年度末までに卒業した学生を対象とし、2019年度以降は2021年度末まで在籍した学生を対象。

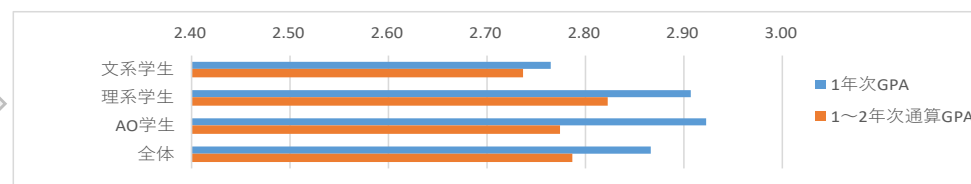
2016～2018 年度入学生	文理区分	人数	1年次GPA	卒業時通算GPA
	文系学生	76	2.69	2.79
	理系学生	100	2.87	2.91
	AO学生	11	2.70	2.72
	全体	187	2.79	2.85



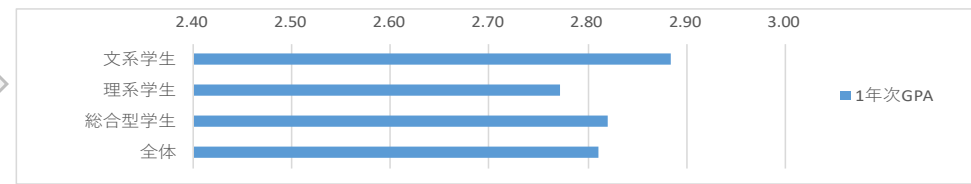
2019 年度入学生	文理区分	人数	1年次GPA	1～3年次通算GPA
	文系学生	37	2.50	2.44
	理系学生	49	2.99	2.95
	AO学生	19	2.71	2.62
	全体	105	2.77	2.71



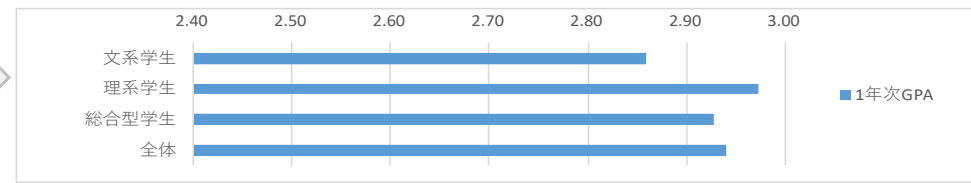
2020 年度入学生	文理区分	人数	1年次GPA	1～2年次通算GPA
	文系学生	32	2.76	2.74
	理系学生	53	2.91	2.82
	AO学生	20	2.92	2.77
	全体	105	2.87	2.79



2021 年度入学生	文理区分	人数	1年次GPA
	文系学生	26	2.88
	理系学生	55	2.77
	総合型学生	18	2.82
	全体	99	2.81



(参考) 2022 年度入学生 ※春学期のみ	文理区分	人数	1年次GPA(春学期)
	文系学生	25	2.86
	理系学生	68	2.97
	総合型学生	11	2.93
	全体	104	2.94



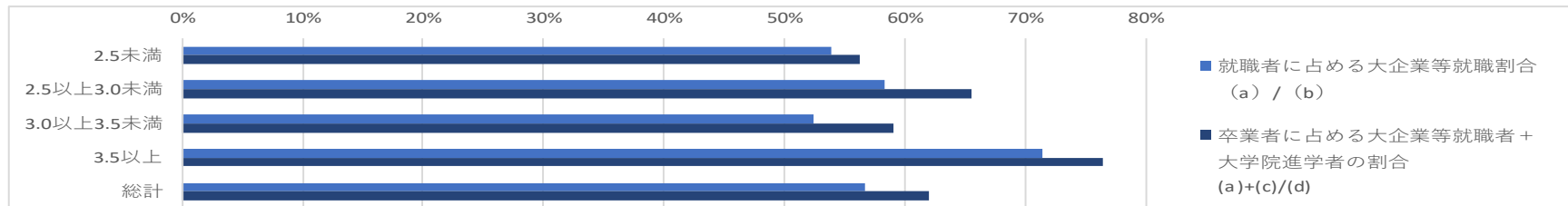
### 【分析】

- ・1年次GPA、通算GPAとも、理系学生のほうが文系学生よりもGPAは高い傾向にある（2021年度入学生は文系学生のほうが高い）。
- ・2020年度入学生では、1年次GPAにおいてAO学生が一般入学生よりもGPAが高い。

### (3) 1年次の学業成績と進路状況(大企業等就職・大学院進学割合)

※大企業等就職割合：就職者のうち、大企業又は官公庁に就職した学生の割合

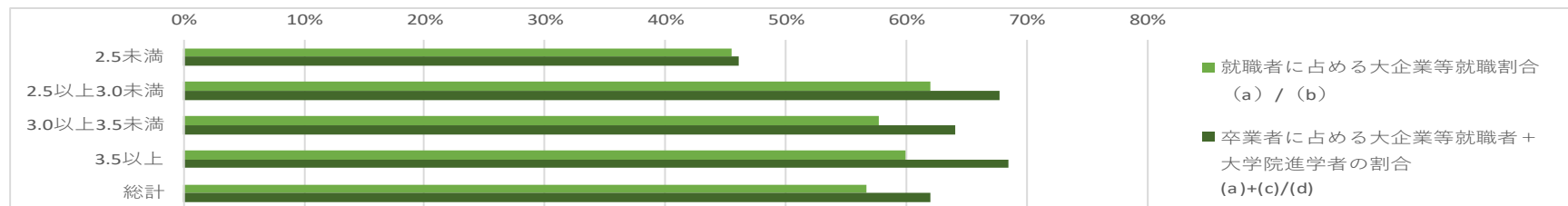
2017～2018 年度入学生	1年次GPA	大企業+官公庁就職者 (a)	就職者 (b)	大学院進学者 (c)	卒業者 (d)	就職者に占める大企業等就職割合 (a)/(b)	卒業者に占める大企業等就職者+大学院進学者の割合 (a)+(c)/(d)
	2.5未満	21	39	6	48	54%	56%
	2.5以上3.0未満	28	48	12	61	58%	66%
	3.0以上3.5未満	22	42	14	61	52%	59%
	3.5以上	10	14	3	17	71%	76%
	総計	81	143	35	187	57%	62%



### (4) 卒業時の学業成績と進路状況(大企業等就職・大学院進学割合)

※大企業等就職割合：就職者のうち、大企業又は官公庁に就職した学生の割合

2017～2018 年度入学生	1年次～卒業時 通算GPA	大企業+官公庁就職者 (a)	就職者 (b)	大学院進学者 (c)	卒業者 (d)	就職者に占める大企業等就職割合 (a)/(b)	卒業者に占める大企業等就職者+大学院進学者の割合 (a)+(c)/(d)
	2.5未満	15	33	3	39	45%	46%
	2.5以上3.0未満	31	50	13	65	62%	68%
	3.0以上3.5未満	26	45	15	64	58%	64%
	3.5以上	9	15	4	19	60%	68%
	総計	81	143	35	187	57%	62%



#### 【分析】

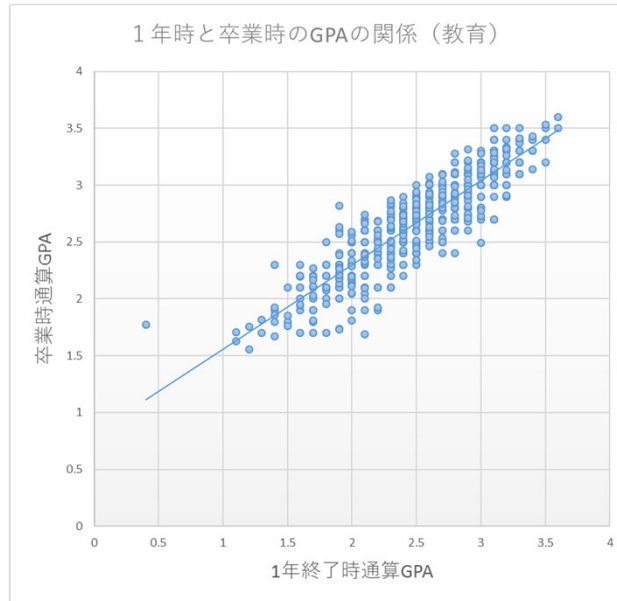
- ・ 1年次時点のGPAで3.5以上の層は、他の層と比較して大企業や大学院に進む割合が多い。
- ・ 卒業時の通算GPAでは、2.5未満の層は大企業等就職+大学院進学の割合が50%を下回る。その他の各層間で大きな差異はない。

## 《参考》1年次の学業成績と卒業時の学業成績の関係 (全学部)

### 教育学部

N = 709

(2016～2018年度入学生のうち、2021年度末までに卒業した学生)

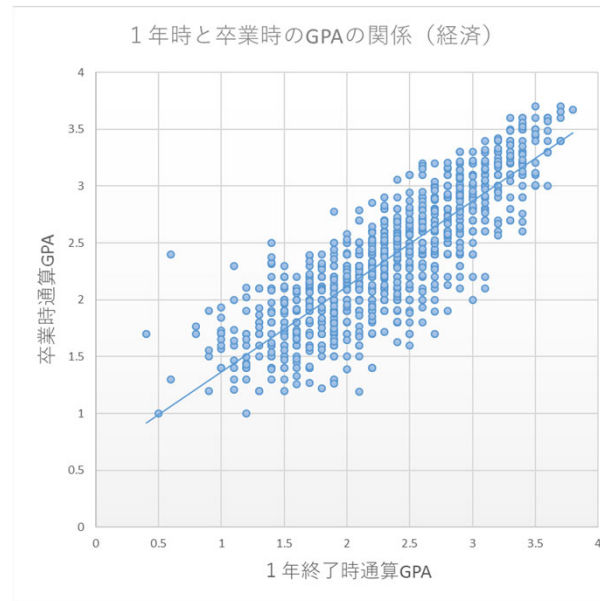


相関係数：0.89211

### 経済学部

N = 1,385

(2016～2018年度入学生のうち、2021年度末までに卒業した学生 (編入学生を除く))

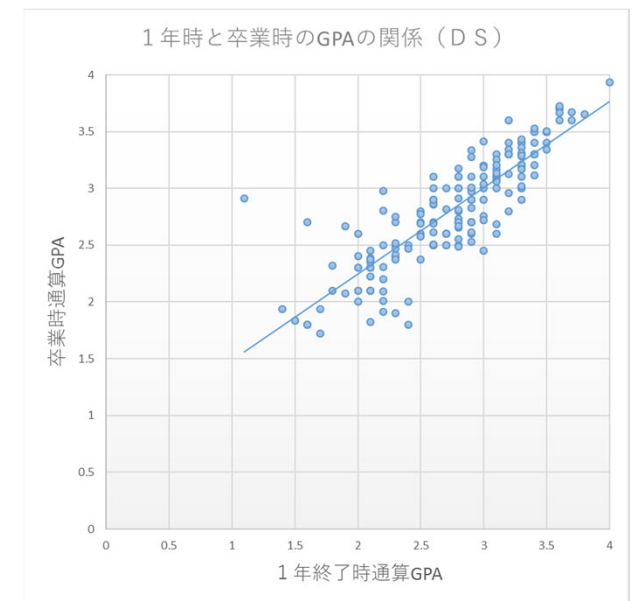


相関係数：0.85231

### D S 学部

N = 187

(2017～2018年度入学生のうち、2021年度末までに卒業した学生)



相関係数：0.85724

#### 【分 析】

- ・いずれの学部も、1年次GPAと4年終了時の最終GPAには強い相関があり、特に教育学部の相関は強い。
- ・例外もあるが、総じて1年次にある程度のGPAを維持していないと、4年間で (卒業時に) 大きな逆転は望めないと考えられる。

## 図書館利用度が学業成績に与える効果についての分析 (図書館関連)

### ①データ収集

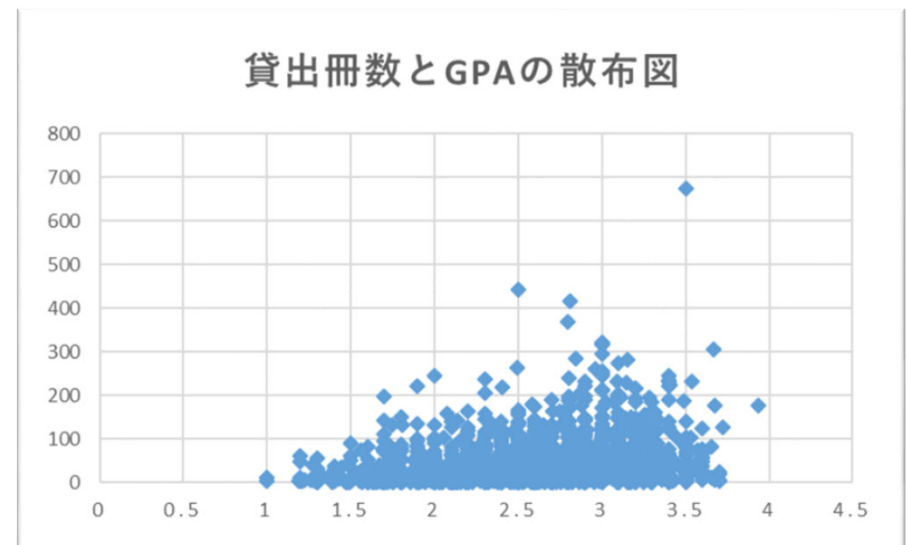
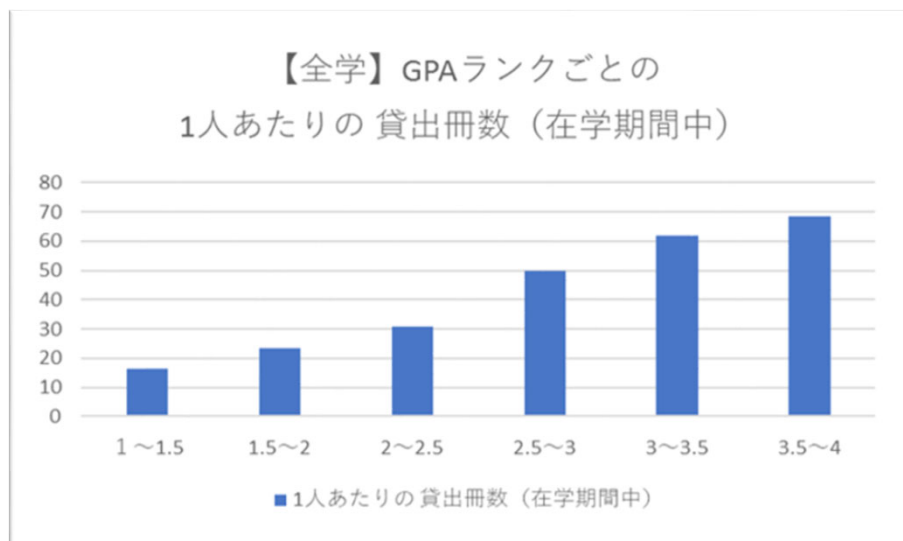
- ・2019、2020、2021年度卒業生の入学時通算GPAデータを学務課から取得 (Dream Campusより)
- ・2019、2020、2021年度卒業生の附属図書館における在学期間中の貸出冊数データを図書情報課から取得 (図書館システムより)

### ②データの統合・集計

①で収集したデータを学籍番号をキーに統合し、GPAを0.5毎にランク分けし、各ランクに属する学生の入学から卒業までの間の1人当たりの貸出冊数を集計 (全学・学部)。(※編入生については在学期間が2年のため除外)

### ▶全学

GPAランク	人数	1人あたりの貸出冊数 (在学期間中)
1～1.5	60	16
1.5～2	375	23
2～2.5	682	31
2.5～3	783	50
3～3.5	352	62
3.5～4	30	69

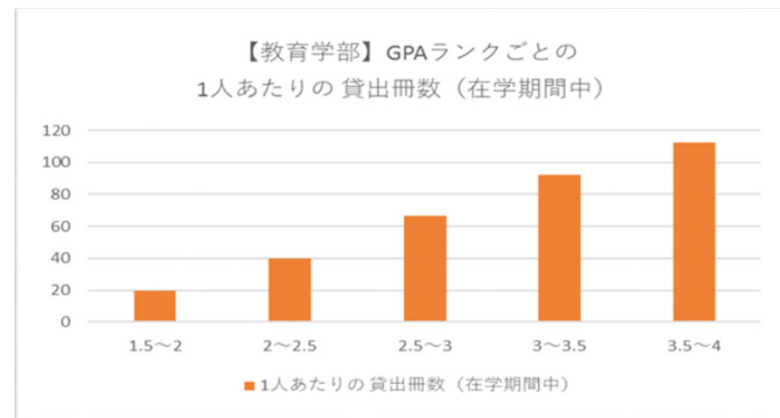


※全学学生のGPAと貸出冊数との相関係数 0.298

## ▶教育学部

GPAランク	人数	1人あたりの貸出冊数（在学期間中）
1.5～2	40	20
2～2.5	181	40
2.5～3	346	67
3～3.5	140	92
3.5～4	2	113

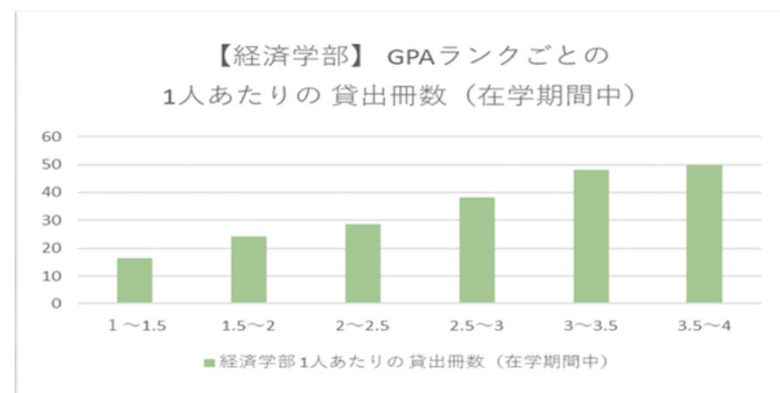
※教育学部生のGPAと貸出冊数との相関係数 0.398



## ▶経済学部

GPAランク	人数	1人あたりの貸出冊数（在学期間中）
1～1.5	60	16
1.5～2	323	24
2～2.5	466	29
2.5～3	370	38
3～3.5	151	48
3.5～4	16	50

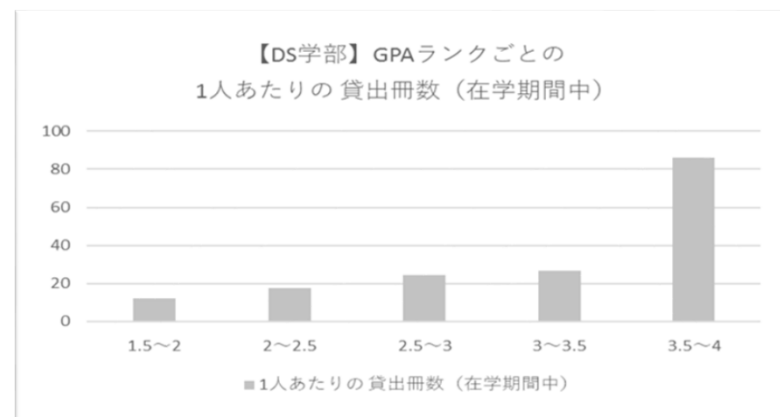
※経済学部生のGPAと貸出冊数との相関係数 0.216



## ▶DS学部

GPAランク	人数	1人あたりの貸出冊数（在学期間中）
1.5～2	12	12
2～2.5	35	18
2.5～3	67	25
3～3.5	61	27
3.5～4	12	86

※DS学部生のGPAと貸出冊数との相関係数 0.238



### 【分 析】

- ・学部を問わずGPAランクが高い学生ほど貸出冊数が増える傾向にある。
- ・GPAと貸出冊数の相関係数は、全学で0.298、教育学部0.398、経済学部0.216、DS学部0.238となっており、いずれも正の相関がみられる。  
なお、GPAランクが上がるほど、特別に多く本を読む学生が含まれており、1人あたりの貸出冊数を引き上げているという傾向もあると考えられる。

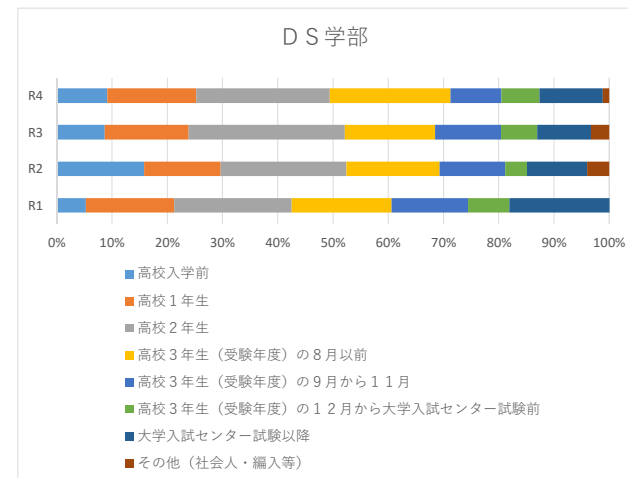
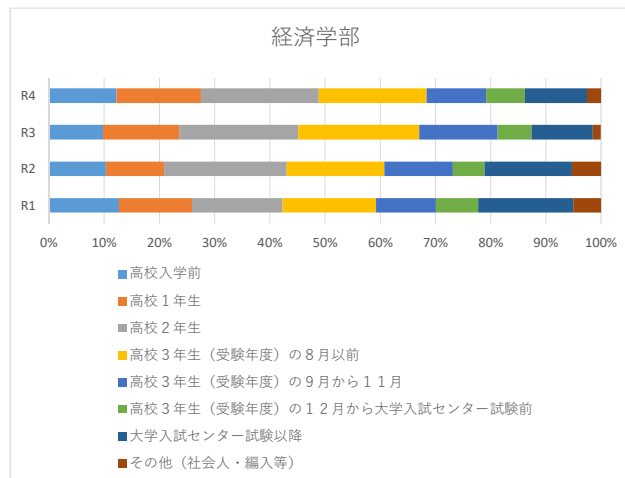
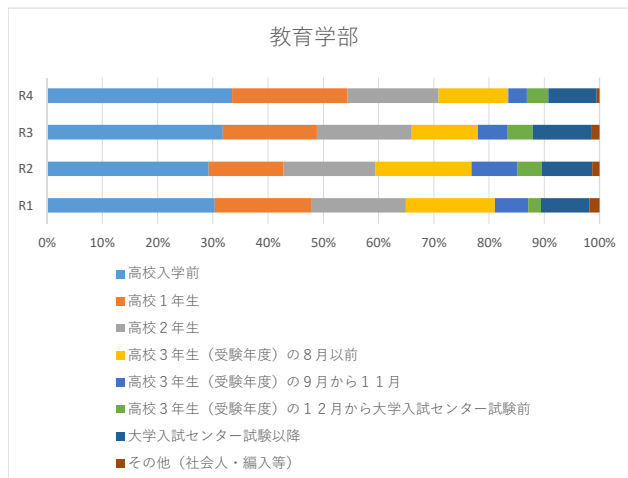


# 新入生意識等調査結果についての分析

(回答数)

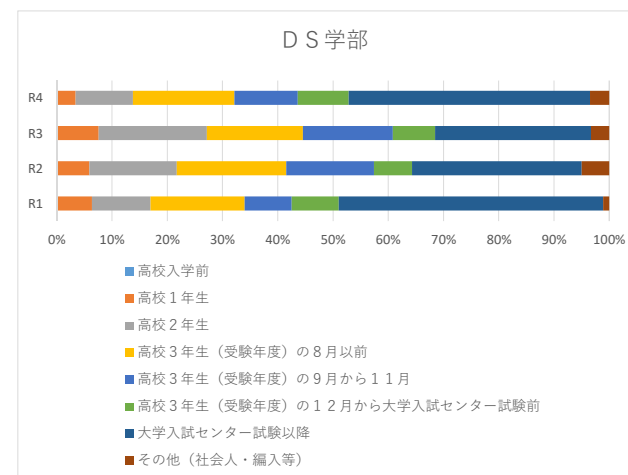
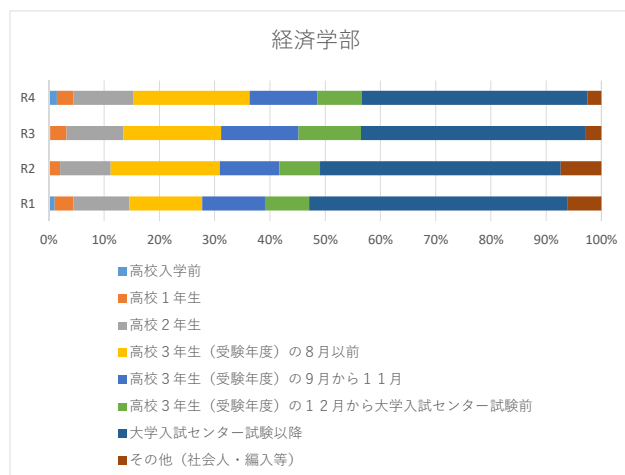
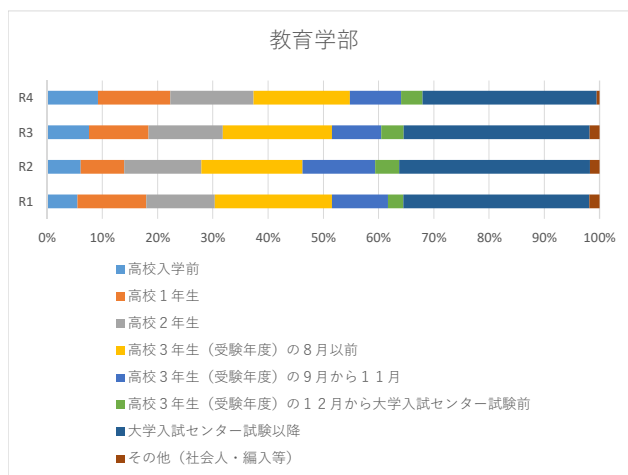
R 4 : 教育 206(回答率86.2%) 経済 399(85.4%) DS 87(83.7%)  
 R 3 : 教育 223(回答率 91.8%) 経済 407(89.5%) DS 92(92.0%)  
 R 2 : 教育 229(回答率 98.3%) 経済 435(94.4%) DS 100(95.2%)  
 R 1 : 教育 217(回答率 90.0%) 経済 378(81.5%) DS 94(89.5%)

## Q1 滋賀大学を知った時期



**[教育・経済では早期化の傾向]** 教育・経済学部においては、本学を知った時期に早期化の傾向が見られる。なお、教育学部においては、高校2年時までに本学を知っていた者がR4で7割を占める一方、経済・DS学部については、5割程度にとどまっている。

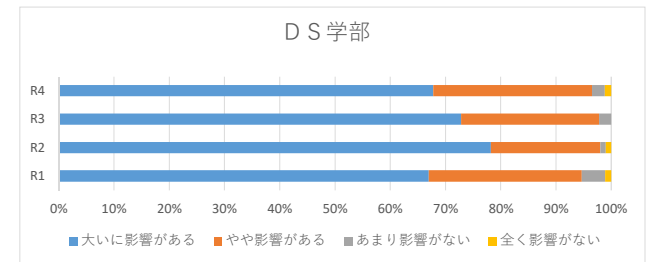
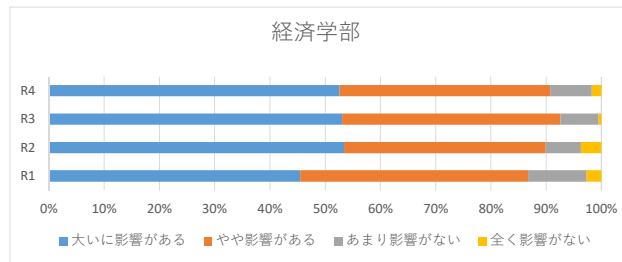
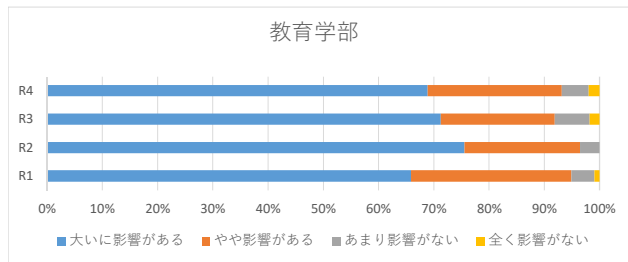
## Q2 滋賀大学を志望することを決めた時期



**[教育・経済では早期化の傾向]** 教育、経済学部においては、本学への志願決定時期にも早期化の傾向が見られる。

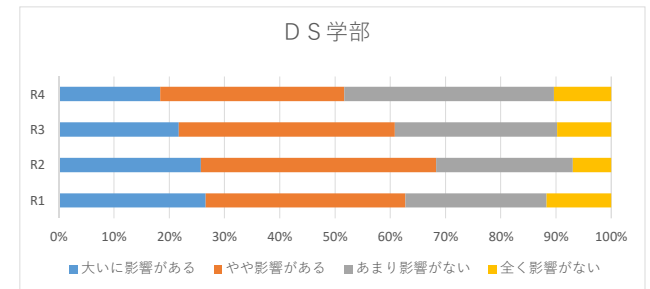
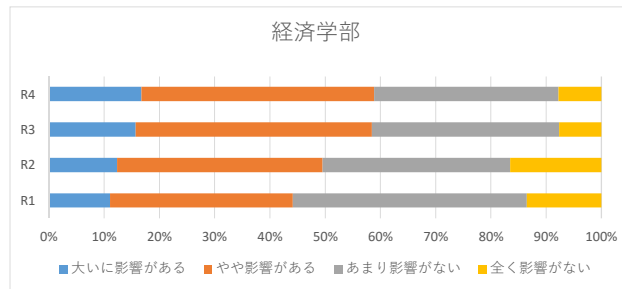
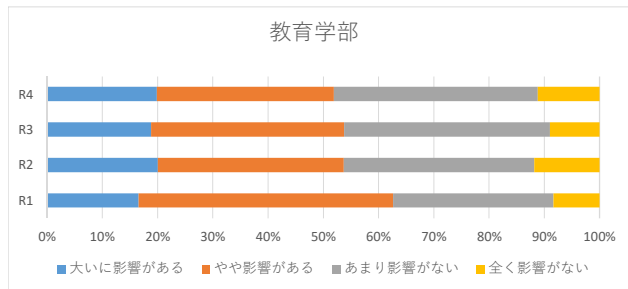
(Q3～Q15 滋賀大学への受験・入学を決めた理由)

Q3 関心ある専門領域



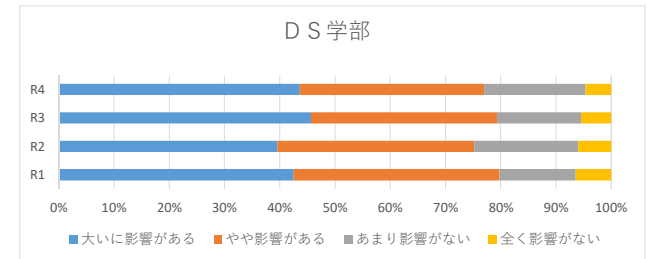
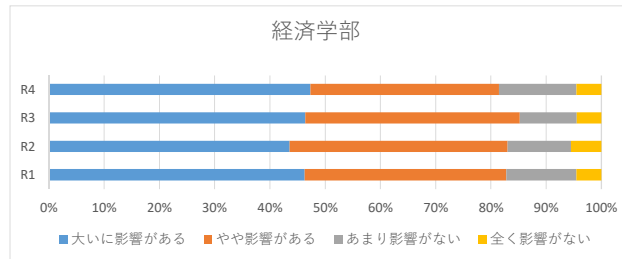
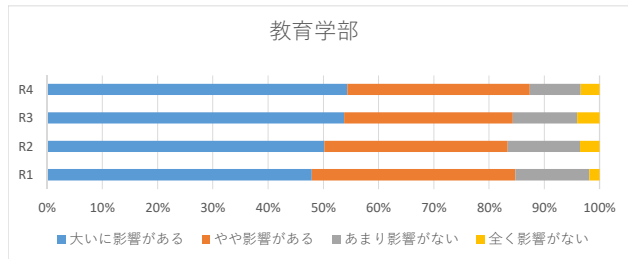
**【専門領域に関心を持って選択】** 全学において「関心ある専門領域を学べる」ことが選択に強く影響している結果となっている。ただし、教育・DS学部では「大いに」と回答したものが7割程度で推移しているのに対し、経済学部では5割程度にとどまっており、両学部と比較すると弱い決定要因となっている。

Q4 先生（教授陣）が魅力的



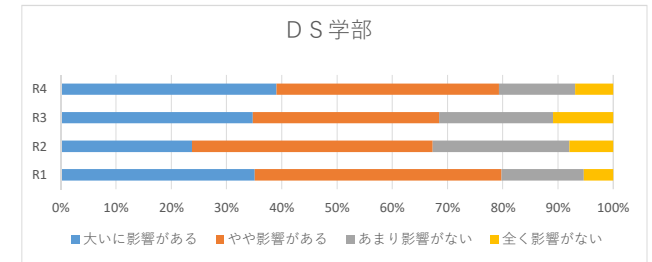
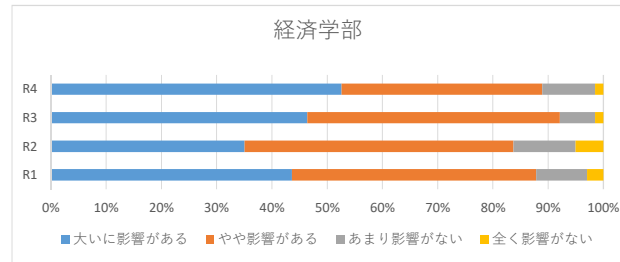
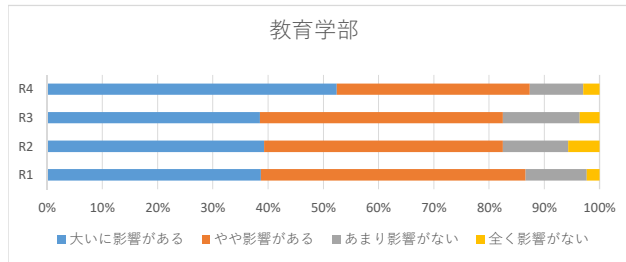
**【相対的には弱い要因】** 他の質問項目と比べると、影響の度合いは比較的弱い項目である。各学部とも5～6割前後で推移しているものの、経済学部では増加傾向、DS学部では減少傾向が見られ、R5の調査結果にも注視が必要と思われる。

Q5 学費の水準



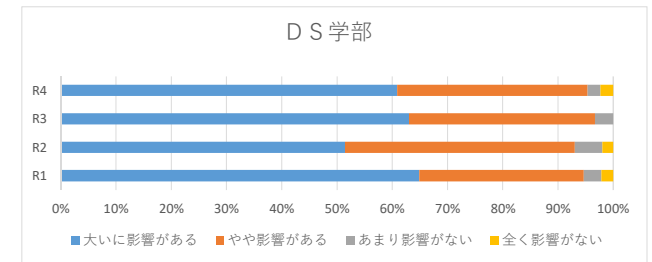
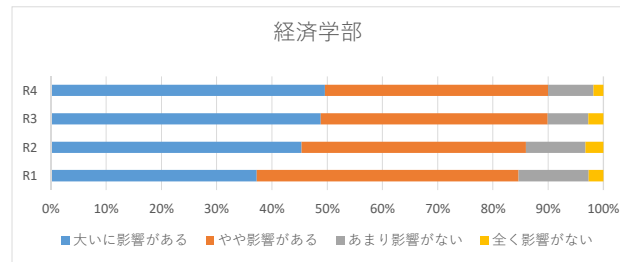
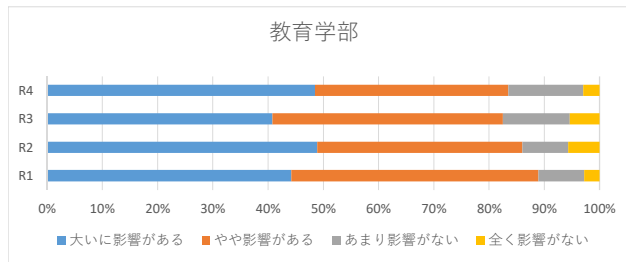
**【学費は強く影響する要因】** 学費の水準は、本学を選択する際に強く影響する要因となっている。各学部とも、毎年8割前後の学生が選択に影響したと回答している。

## Q6 国立大学としてのブランド



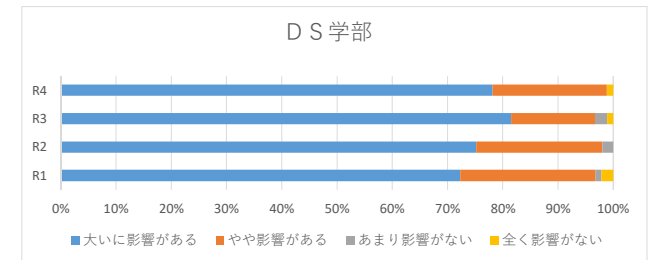
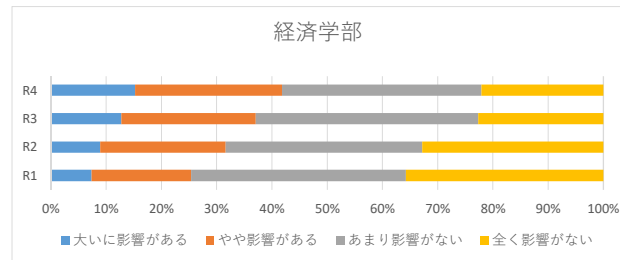
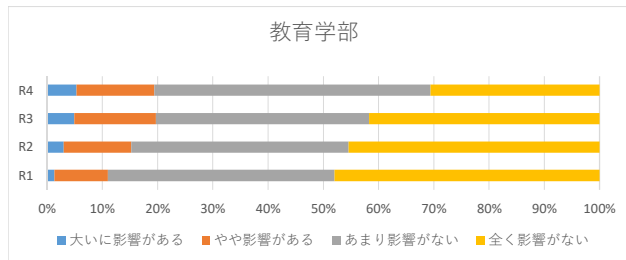
**【国立大学も強く影響する要因】** 国立大学としてのブランドも、本学を選択する際に強く影響する要因となっている。教育・経済学部では概ね8~9割で推移している。DS学部ではそれよりは若干弱いものの、7~8割程度で推移している。

## Q7 学びたい分野での評価が高いこと



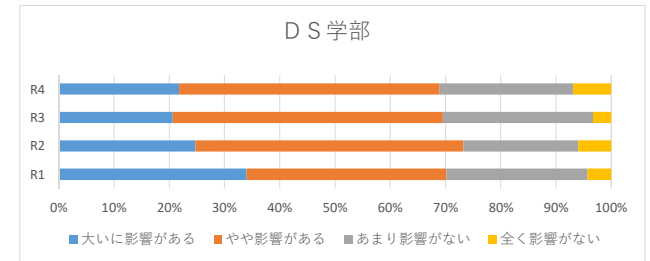
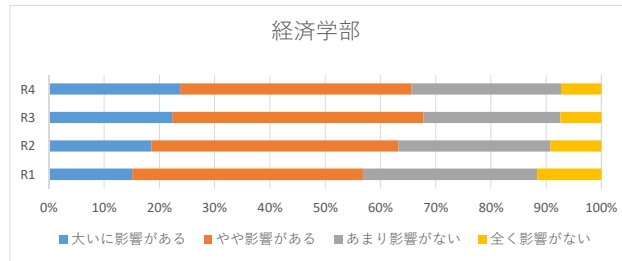
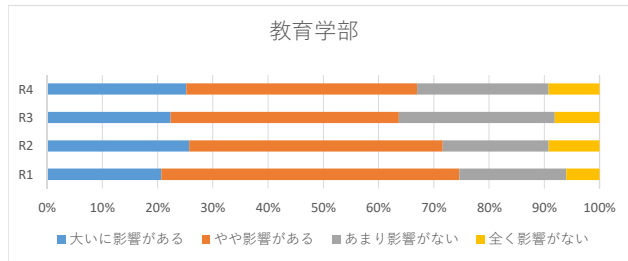
**【分野での社会の評価も影響】** 各学部生とも毎年8割以上が影響したと回答している。特に、DS学部では9割以上が影響したと回答しており、「大いに影響した」学生も6割前後で推移している。

## Q8 データサイエンスに関する取組で注目されている大学であること



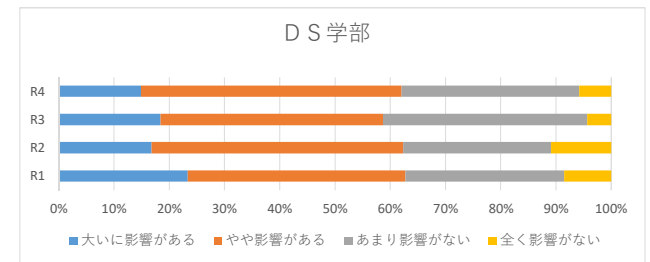
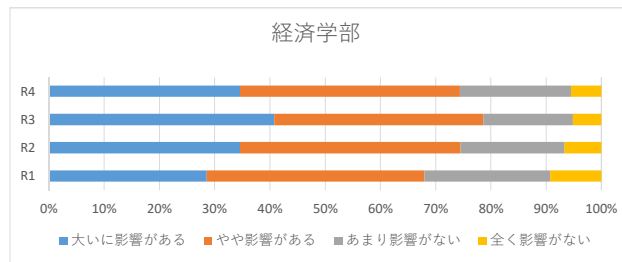
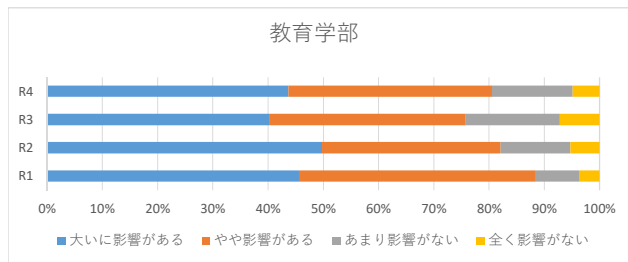
**【教育・経済で増加傾向】** DSで注目されているという要因の影響は、DS学部では毎年100%に近い回答となっている。教育・経済学部でも増加傾向を示しており、教育R1:10% R4:20%、経済R1:25% R4:40%超となっている。

### Q9 学習環境が整備されていること



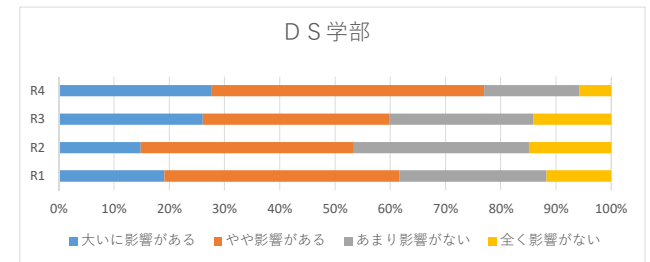
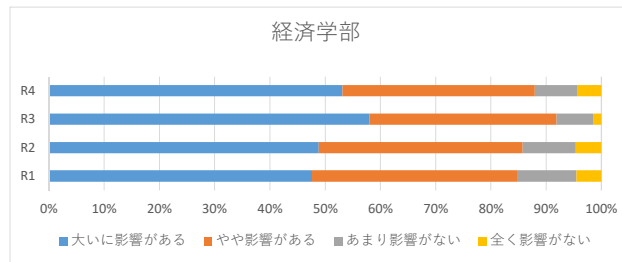
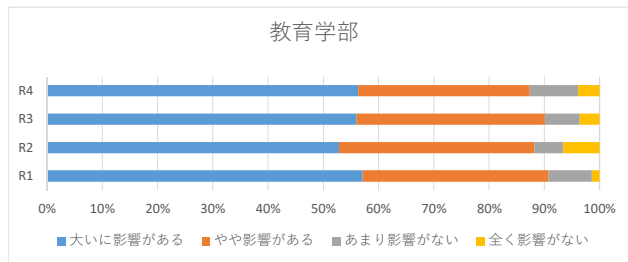
**【学部間で大きな差異はない】 学習環境の影響については、学部毎に大きな差異はなく、影響度は概ね6～7割である。**

### Q10 学習支援・就職支援が充実していること



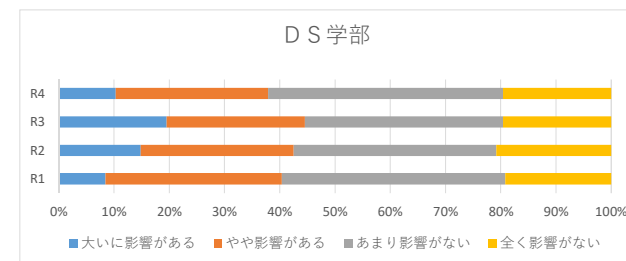
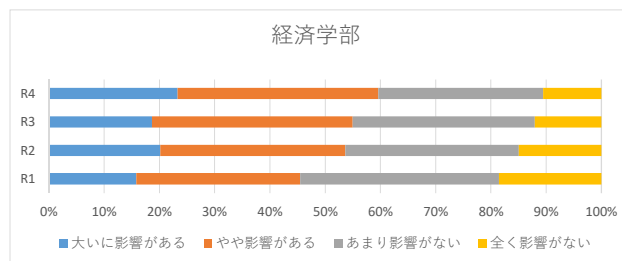
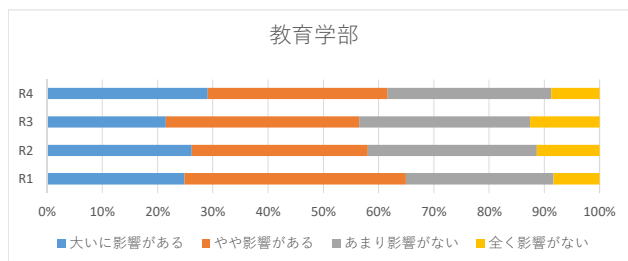
**【教育・経済で強い】 学習支援・就職支援の充実の影響度合いは、教育学部：8割前後、経済学部：7～8割前後、DS学部：6割前後で推移している。**

### Q11 進路の状況がよいこと



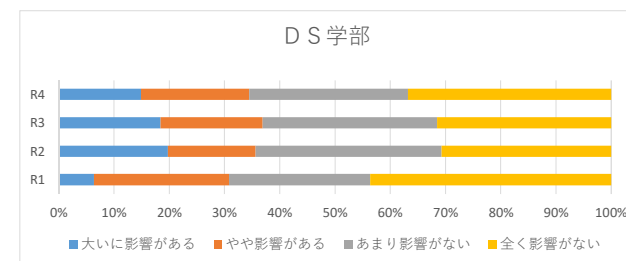
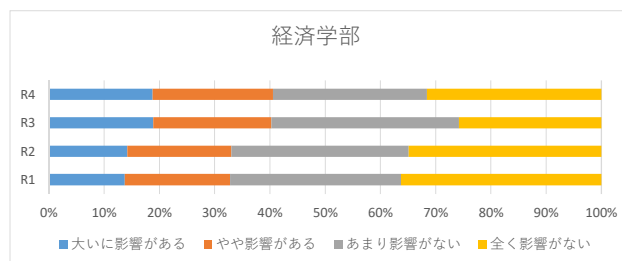
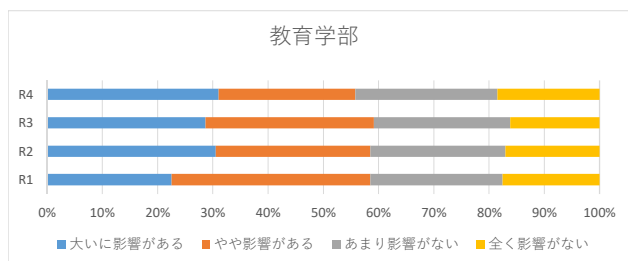
**【教育・経済で強い】 進路状況は、教育・経済学部でほぼ9割が肯定的に回答する強い選択要因となっているとともに、DS学部についてもR4は7割以上が肯定的に回答しており、大学としての進路状況の水準がプラスに働いている。**

## Q12 大学のおかれている環境（自然、文化遺産、住みやすさ、町の雰囲気）



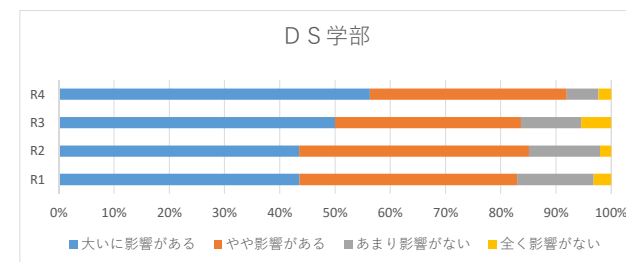
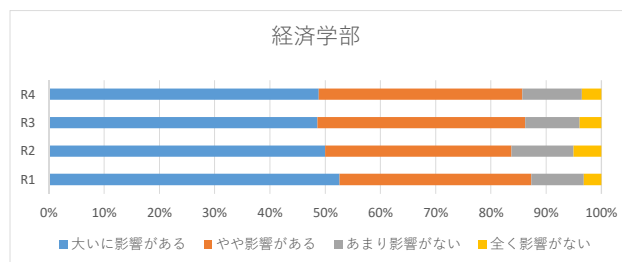
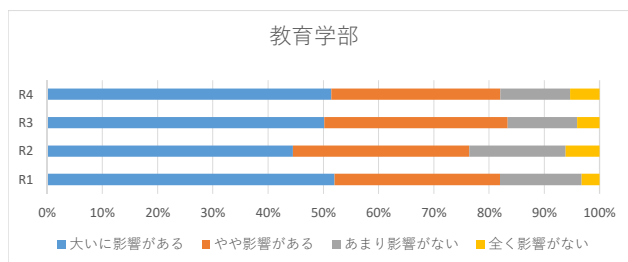
**【教育・経済でやや影響】**大学の周辺環境は他の選択要因と比較すると相対的には影響度は弱く、DS学部では4割程度である一方、経済学部で5～6割程度、教育学部では6割程度で推移している。

## Q13 通学しやすいこと



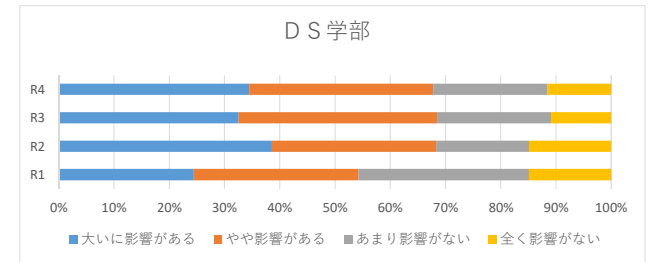
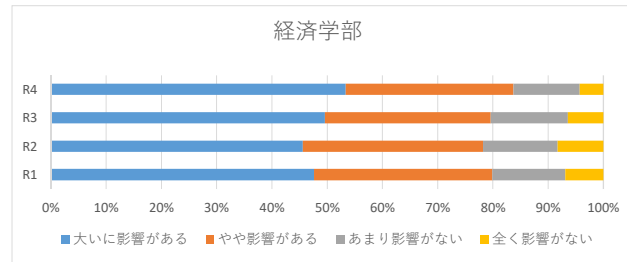
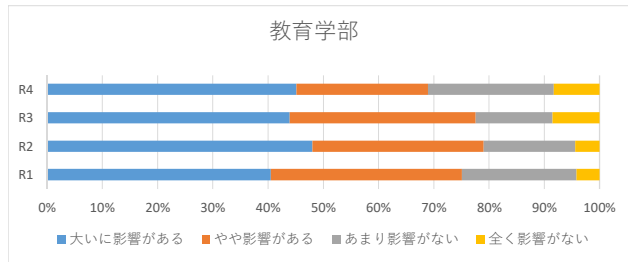
**【教育学部でやや影響】**通学のしやすさは相対的には影響度は弱い。特に経済・DS学部では影響の割合は3～4割程度で推移している。他方で教育学部では6割程度で推移している。

## Q14 自分の学力（合格可能性）を勘案



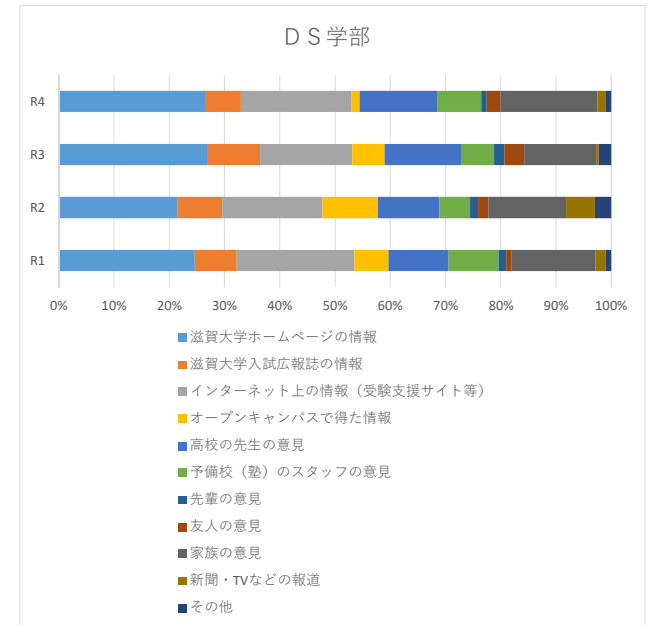
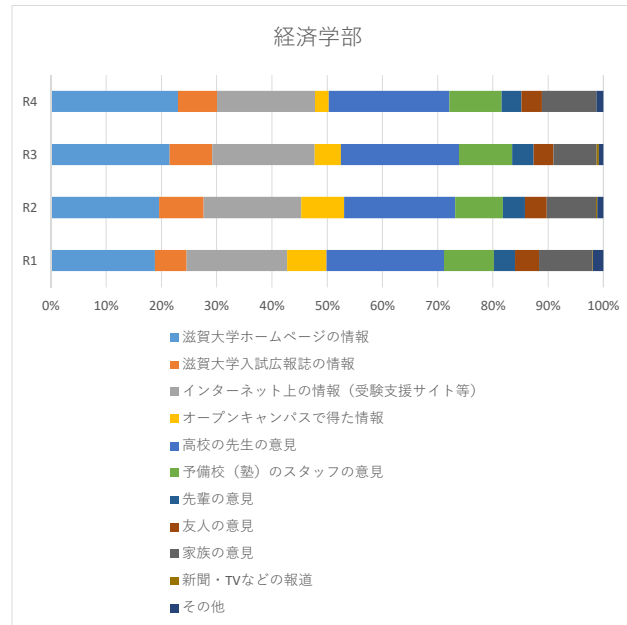
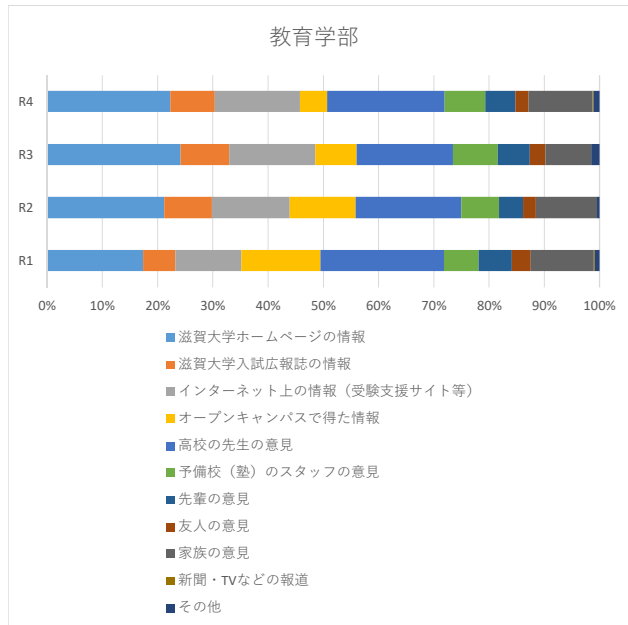
**【全学部で強く影響】**各学部とも5割程度の学生が、自分の学力との相応性が「大いに影響した」と回答している。DS学部は増加傾向が見られ、R5の調査結果にも注視が必要である。

## Q15 自分に適した入学試験制度があること



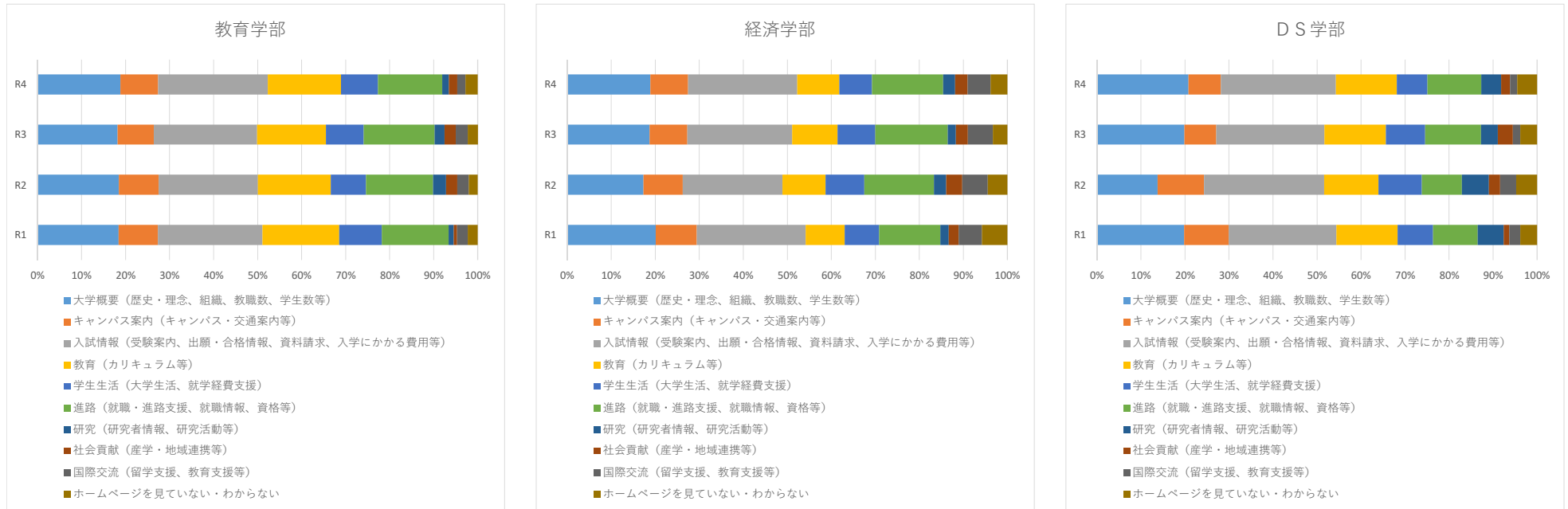
【経済学部でやや強い】入試制度との適合性は、経済学部で「大いに影響」の回答が5割程度で推移しており、「やや影響」と合わせるとR4に8割以上が影響したと回答している。

## Q17 進路選択の際に参考とした情報



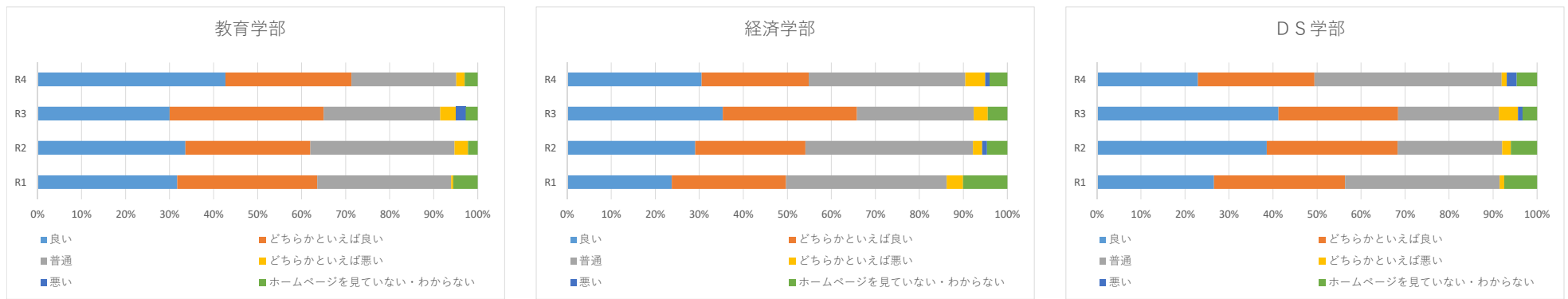
【教育・経済…高校の先生、DS…HP、ネット情報】教育学部・経済学部については、高校の先生の助言が2割強で推移している。DS学部では、ホームページやネット情報が参考とされている。

## Q21 受験の際に参考とした本学ホームページの情報



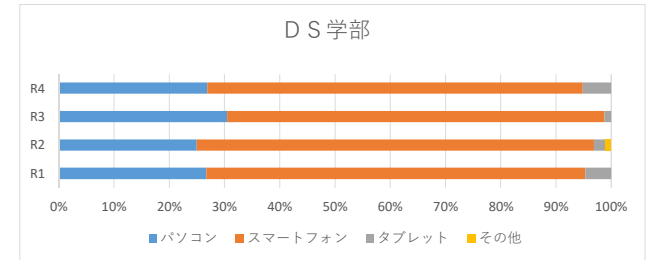
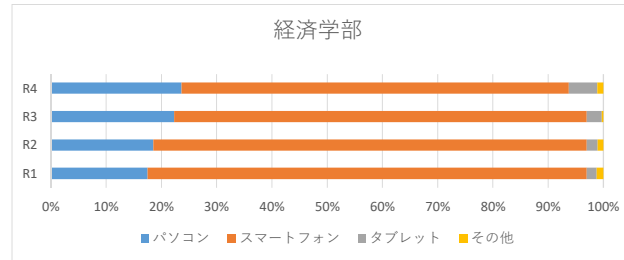
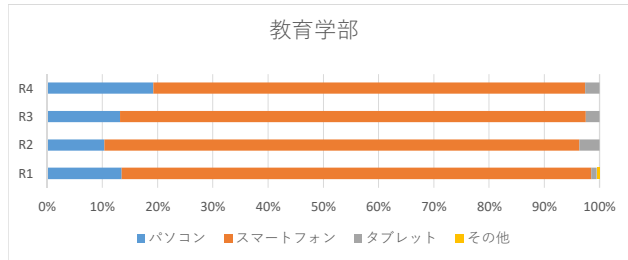
**【学部間で大きな差異はない】 学部間で大きな差異はなく、入試情報、大学概要、教育カリキュラム、進路情報等が特に参考とされている。**

## Q22 本学ホームページの印象



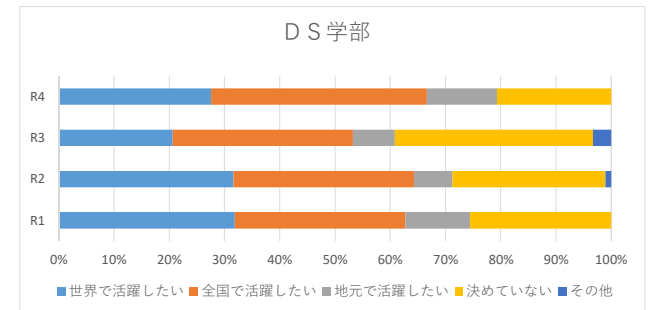
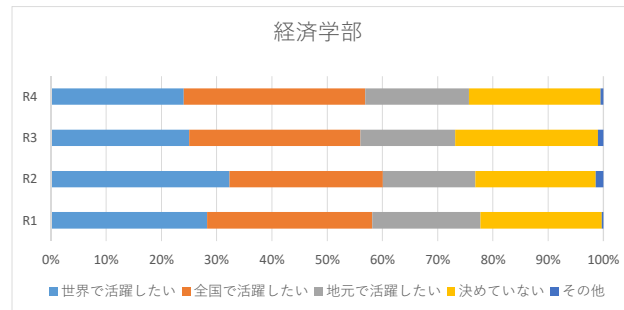
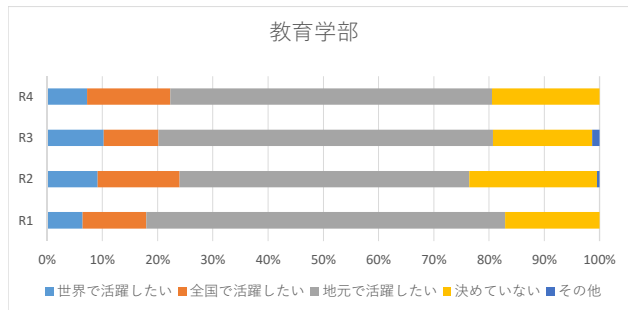
**【R5結果にも注視が必要】 教育学部生は毎年6割以上、R4は7割以上の者が好印象の回答をしている。経済・DS学部は年度によりばらつきがあるため、HPリニューアルを踏まえたR5新生生の調査結果にも注視が必要と考えられる。**

## Q23 本学ホームページを見る際に使用したデバイス



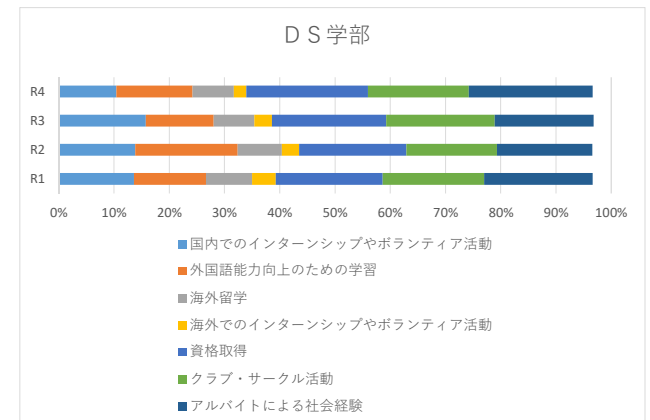
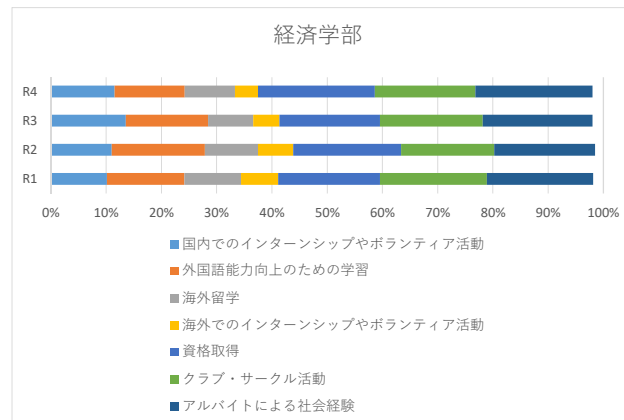
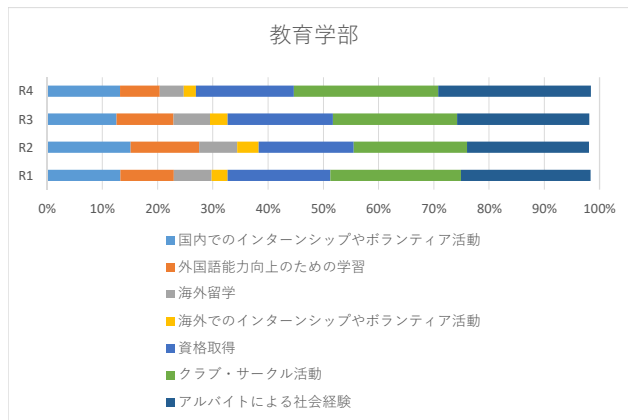
**[PC約2割、スマホ約8割] スマートフォンが圧倒的に多い。ただし、DS生と教育学部生を比較すると、PCを利用する学生が2倍程度多い。**

## Q25 将来活躍したい地域



**[地域志向の教育学部生、全国・世界志向の経済・DS生] 教育学部生については、将来の活躍の場として地域を想定している学生が6割程度で推移している。一方、経済・DS学部では、全国又は世界を活躍の場として想定する学生が6割程度で推移している。**

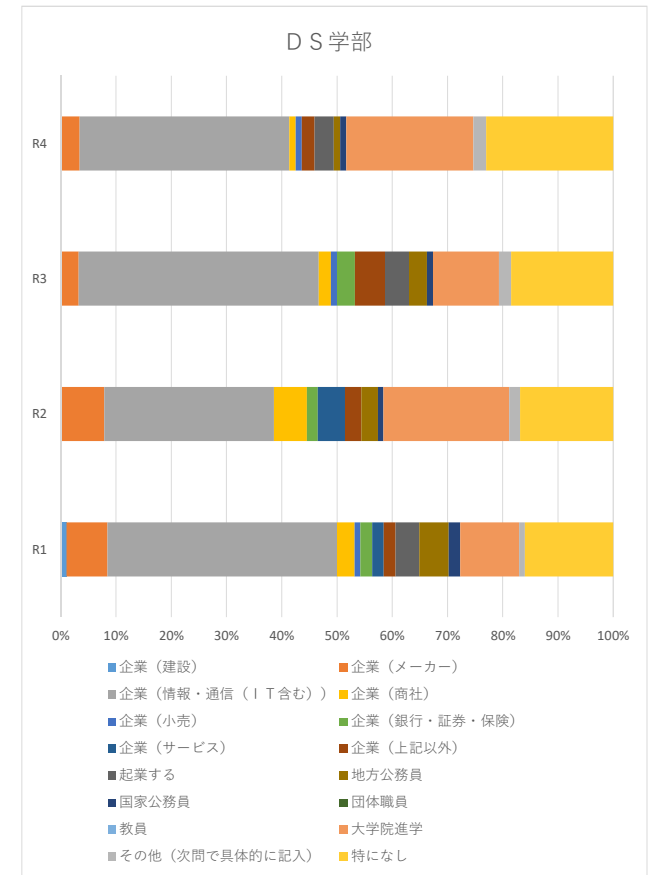
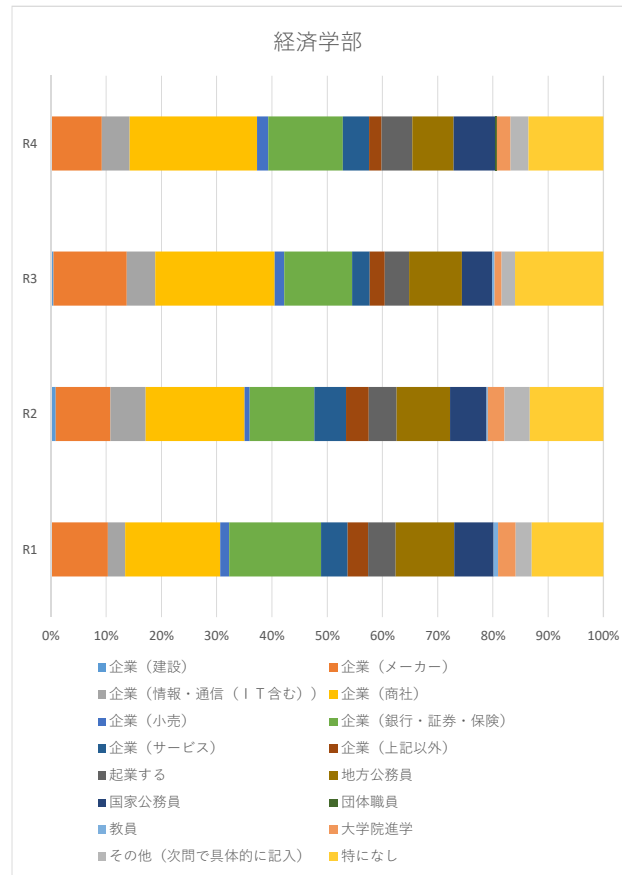
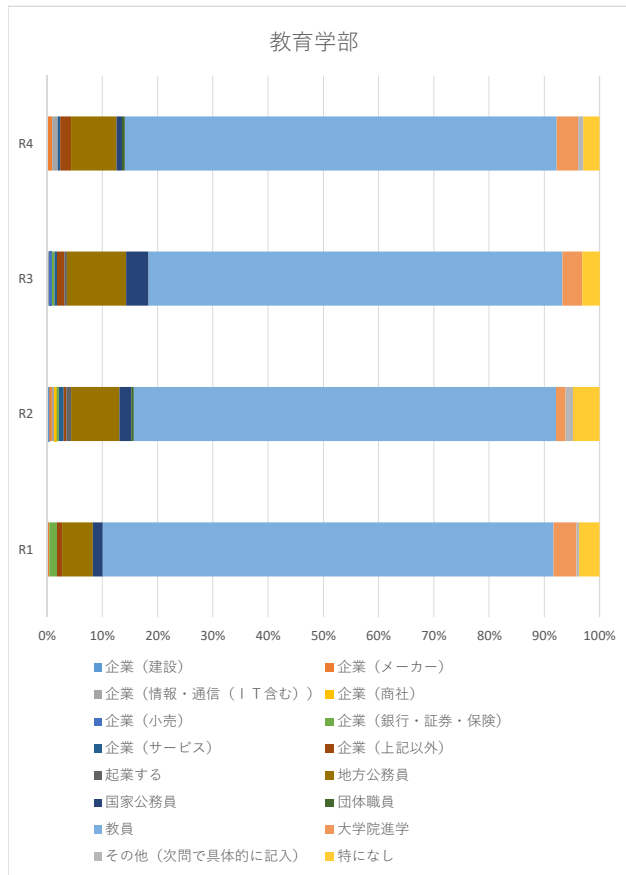
## Q26 学習外で取り組みたいこと



**[資格・クラブ・バイト] 学習外で頑張りたいことは、資格・クラブ・バイトがそれぞれ2~3割程度で推移しているが、各学部ともR3以降、増加傾向が見られるため、R5の調査結果にも注視が必要である。**



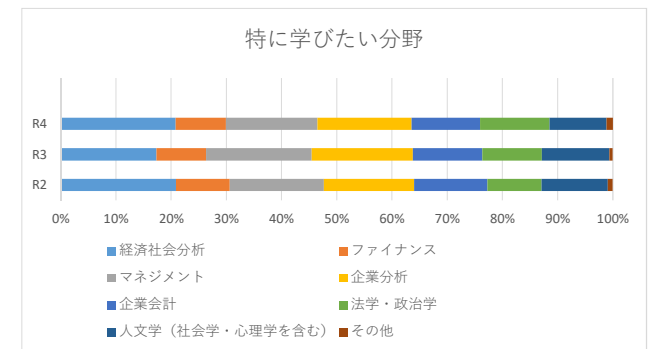
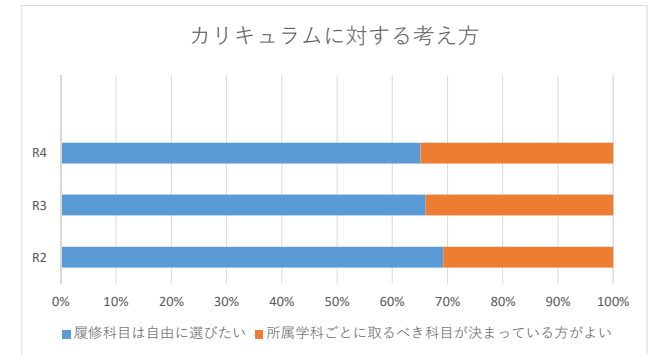
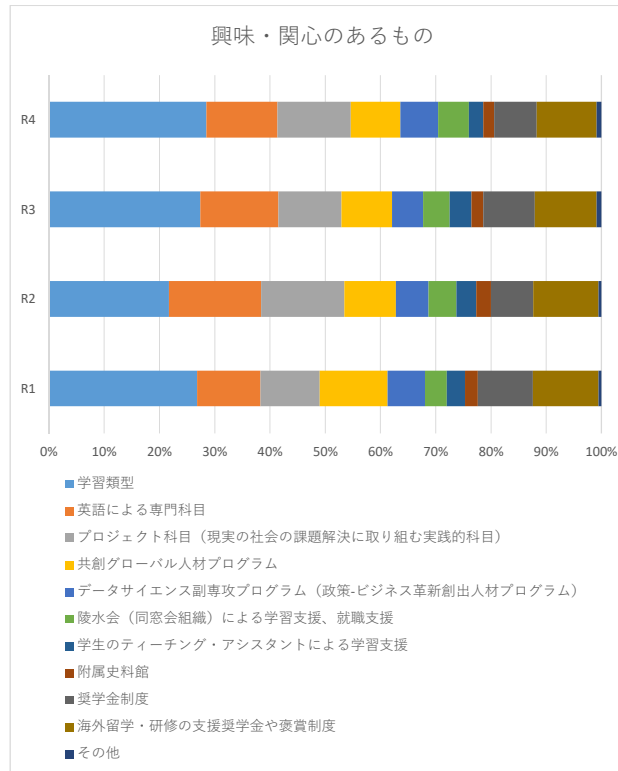
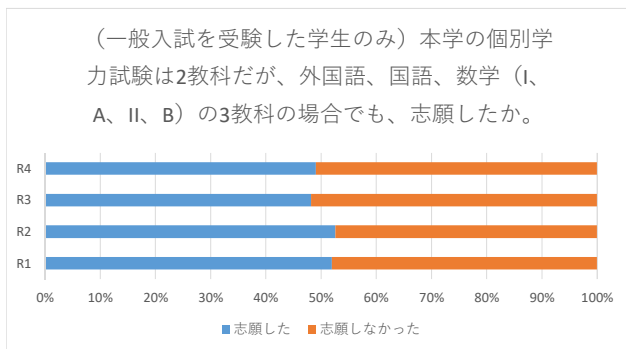
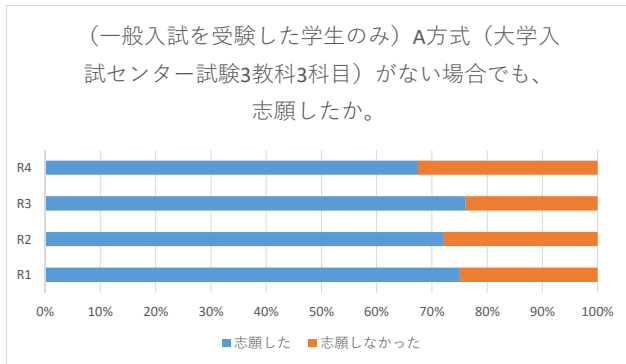
## Q27 最も強く希望する進路



**【各学部ごとに特色】最も強く希望する進路は、教育学部生…教員、経済学部生…企業(商社、金融、メーカー)、DS学部生…企業(情報・通信)・大学院進学がそれぞれ多数を占めており、各学部ごとに特色が出ている。**



## 学部独自質問（経済学部）



## 学部独自質問（DS学部）

